

播磨町生涯学習推進計画 (第3次)



令和3年9月

播磨町

播磨町生涯学習推進計画（第3次） の策定にあたって

「播磨町生涯学習推進計画」は、播磨町のまちづくりの指針である「播磨町総合計画」の施策の一つである「生涯学習の充実」を実現するための計画です。このたび、新たに「第5次播磨町総合計画」が策定されたことから、これに合わせ、「播磨町生涯学習推進計画（第3次）」を策定いたしました。



近年の医療技術等の進歩により、いまや「人生100年」と言われるような時代を迎えております。こうした時代にあって、心身ともに健康で豊かな生活を送るためには、生涯にわたり学習を続けることが肝要であります。生涯にわたり学び続けることは、生活の質の向上にもつながり、さまざまな場面においてよりよい影響を及ぼすこととなります。また、地域コミュニティがますます稀薄化する現代においては、学びを通じた「人づくり・地域づくり・絆づくり」も一層大切な時代となっております。

少子高齢社会、子どもの貧困問題、環境問題、AI等の先進技術の発達による諸問題など複雑かつ多様化した課題が山積する現代社会において、「持続可能な開発目標（SDGs）」の理念のもと、誰一人として取り残されない・取り残さない社会を実現するために生涯学習の果たすべき役割は大きいと言えます。この計画を一つの指針とし、住民の皆さまとともに、みんなの“楽しい”が見つかる・見つける・つながる「生涯学習のまち」の実現を目指してまいりたいと思います。

最後になりましたが、計画策定にあたりご尽力いただきました皆さまに心からお礼申し上げます。

令和3年9月

播磨町長 清水 ひろ子

目 次

第 1 章 計画の策定の趣旨	1
1 策定の趣旨	1
2 生涯学習・社会教育とは	2
3 計画の位置付け	3
4 計画の期間	4
5 計画の策定体制	4
第 2 章 計画策定の背景	5
1 生涯学習に関する制度等の推移	5
2 生涯学習を取り巻くわが国の状況	7
3 生涯学習を取り巻く播磨町の状況	9
第 3 章 基本構想	18
1 基本理念	18
2 基本目標	19
3 施策の体系	21
4 数値目標（成果指標）	22
第 4 章 推進計画	23
1 誰もが生涯を通じて学ぶことができる機会の充実 ～学びづくりへの取り組み～	23
2 一人一人が輝く人材づくりの推進 ～人づくりへの取り組み～	31
3 学びを地域の発展に活かすことができる環境の充実 ～まちづくりへの取り組み～	34

第5章 計画の推進に向けて..... 39

- 1 計画の周知と各種情報の収集・発信..... 39
- 2 連携・協働による計画の推進..... 39
- 3 進捗状況の点検・評価及び計画の見直し..... 40

資料編 41

- 1 播磨町の宣言..... 41
- 2 播磨町生涯学習推進計画策定委員会設置要綱..... 42
- 3 播磨町生涯学習推進計画（第3次）策定委員会委員名簿..... 44
- 4 生涯学習についてのアンケート調査..... 45
- 5 生涯学習推進計画策定のためのヒアリング調査..... 58
- 6 計画の歩み..... 62
- 7 用語解説..... 63
- 8 本計画と「持続可能な開発目標（SDGs）」との関係..... 66

1 策定の趣旨

医学の進歩、生活水準の向上等により、平均寿命が著しく伸長し、100歳前後まで生きることが可能となる時代が到来しています。平成29年12月に取りまとめられた「人生100年時代構想会議中間報告」においては、「100年という長い期間をより充実したものとするためには、生涯にわたる学習が必要である」ことなどが述べられており、生涯学習の重要性が一層高まっています。

国は、平成30年の「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策」の答申において、人口減少社会における、新しい地域づくりをすすめるための学習・活動の在り方及び、今後の地域における社会教育と社会教育施設の在り方を示しました。今後の地域における社会教育については、「社会教育」を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくりの重要性とともに、その上で、地域における新時代の社会教育の方向性として「開かれ、つながる社会教育」を提示しました。

播磨町教育委員会においては、平成28年3月に策定した播磨町生涯学習推進計画（第2次）の着実な推進により、各取り組みにおいて一定の成果が見られる一方で、生涯学習を取り巻く環境の著しい変化により、今日的な課題への対応が求められています。

また、子どもや働き盛りの世代の人々、そして高齢者がそれぞれの能力を活かし、力を合わせて、豊かで安心して暮らせる地域や社会を次代に引き継ぐことができるよう、少子高齢化に対応した環境の整備に努めることが重要となります。

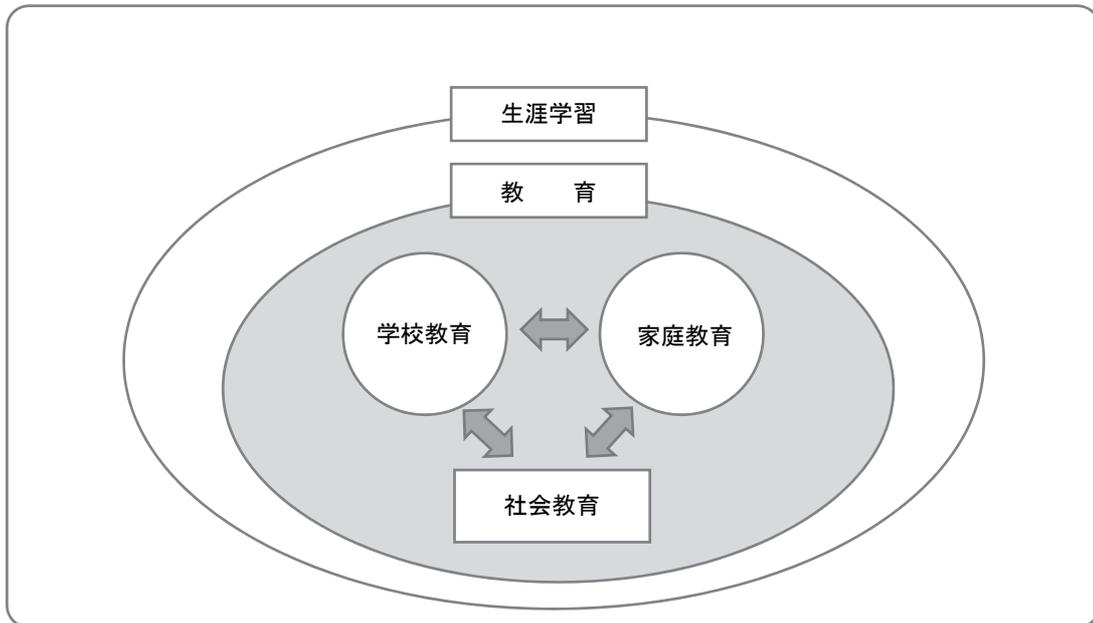
これらを踏まえ、本町の生涯学習の今後目指すべき方向性について、中期的に取り組む施策等を総合的かつ体系的に推進していく必要があることから、生涯にわたる人間形成の基盤となる生涯学習の振興を重点的に捉え、播磨町生涯学習推進計画（第3次）を策定するものです。

2 生涯学習・社会教育とは

生涯学習とは、自己の充実や生活の向上のために、人生の各段階での課題や必要に応じて、あらゆる場所、時間、方法により学習者が自発的に行う自由で広範囲な学習のことを指します。

また、社会教育とは、教育のうち、学校又は家庭において行われる教育を除き、広く社会において行われる教育のことを指します。

生涯学習の位置付けについて

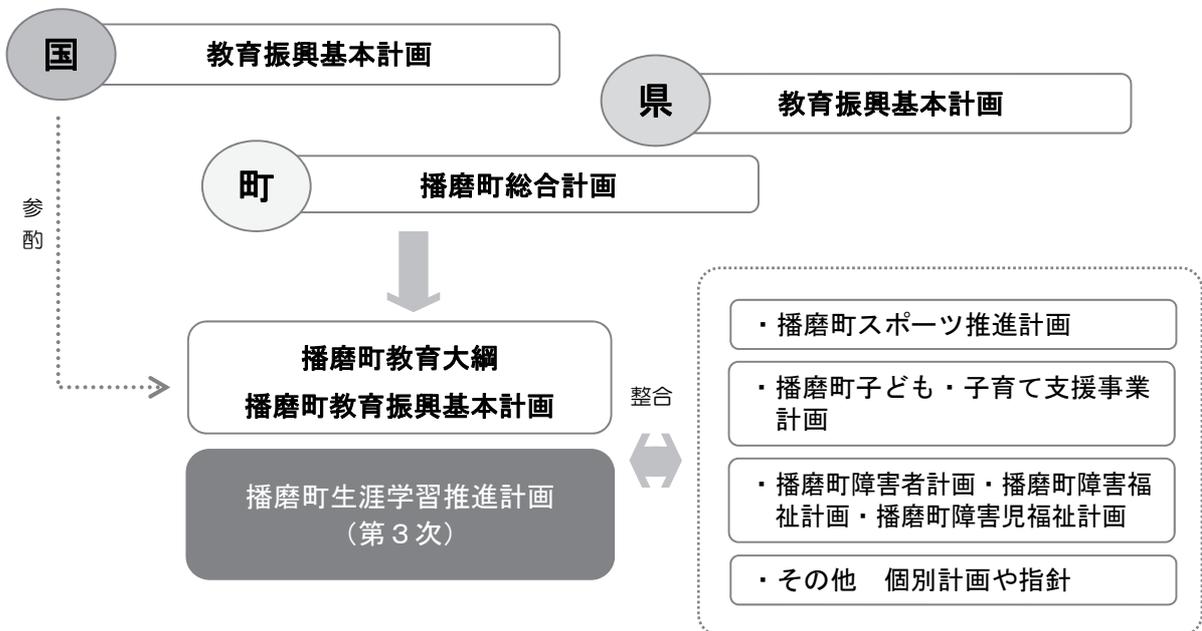


3 計画の位置付け

○この計画は、教育基本法第 17 条第 2 項に基づく「当該地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画」として位置付けるものです。

○この計画は、町政運営の指針「播磨町総合計画」を上位計画として、その教育・文化分野の目標を達成するためのものです。また、「播磨町教育大綱」、「播磨町教育振興基本計画」、「播磨町スポーツ推進計画」、「播磨町子ども・子育て支援事業計画」、「播磨町障害者計画・播磨町障害福祉計画・播磨町障害児福祉計画」等と整合性を図るものです。

【本計画の位置付け】



4 計画の期間

本計画の期間は、令和3年度から令和12年度までの10年間とします。なお、大幅な制度改正や社会情勢の変化等が生じた場合は、必要に応じて見直しを行います。

5 計画の策定体制

策定にあたり、有識者をはじめとした関係機関からの選出による「生涯学習推進計画策定委員会」を設置し、検討を重ねるとともに、町民へのアンケートや、生涯学習関連団体へヒアリングを実施し策定しました。

1 生涯学習に関する制度等の推移

生涯学習に関する国における主な制度等の推移は以下のとおりです。

年月	内容
昭和 59 年～ 昭和 62 年	○臨時教育審議会の答申 ・生涯学習体系への移行の考え方と生涯学習体制の整備の具体的方策が全体的に取りまとめられました。
平成 2 年 8 月	○生涯学習審議会の設置 ・臨時教育審議会の答申において「生涯学習体系への移行」が、教育改革の 3 つの基本理念の一つとして提言され、その後文部省に生涯学習局が設置され、同年 8 月に「生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律」が制定されました。
平成 13 年 1 月	○中央教育審議会生涯学習分科会の設置 ・中央教育審議会は、中央省庁等改革の一環として、文部科学省に設置され、生涯学習分科会は、生涯学習審議会の主要な機能を引き継ぐ分科会として設置されました。
平成 18 年 12 月	○教育基本法の改正 ・国民一人一人が自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に活かすことのできる社会の実現を目指すことが定められました。
平成 23 年 8 月	○障害者基本法の改正 ・国及び地方公共団体は、障がい者が、その年齢及び能力に応じ、かつ、その特性を踏まえた十分な教育を受けられるようにするため、可能な限り障がい者である児童及び生徒が障がい者でない児童及び生徒と共に教育を受けられるよう配慮しつつ、教育の内容及び方法の改善及び充実を図る等必要な施策を講じなければならないこと、また、障がい者である児童及び生徒と障がい者でない児童及び生徒との交流及び共同学習を積極的にすすめることによって、その相互理解を促進しなければならないことが定められました。
平成 25 年 6 月	○障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）の制定 ・障がいを理由に行われる差別や権利を害する行為の禁止や、合理的配慮の提供が規定されました。

年月	内容
平成 25 年 9 月	<p>○学校教育法施行令の一部改正</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「就学基準に該当する障害のある子どもは特別支援学校に原則就学する」という従来の就学先決定の仕組みを改め、障がいの状態、本人の教育的ニーズ、本人・保護者の意見、教育学、医学、心理学等専門的見地からの意見、学校や地域の状況等を踏まえた総合的な観点から就学先を決定することとされました。
平成 30 年 12 月	<p>○中央教育審議会の答申</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少社会における、新しい地域づくりをすすめるための学習・活動の在り方及び、今後の地域における社会教育と社会教育施設の在り方が示されました。 ・今後の地域における社会教育については、「社会教育」を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくりの重要性とともに、その上で、地域における新時代の社会教育の方向性として、「開かれ、つながる社会教育」が提示されました。 ・社会教育施設においては、公民館、図書館及び博物館等の地域の学習拠点として期待される役割が示されました。
平成 31 年 4 月	<p>○障害者活躍推進プランの策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある人の生涯にわたる多様な学びを応援するため、学校卒業後の障がいのある人の生涯にわたる主体的・継続的な学びの場の充実に向けて教育・学習面の条件整備を行い、障がいのある人の真の社会参加や自立の実現を目指しています。
令和 3 年 1 月	<p>○「令和の日本型学校教育」の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央教育審議会において、社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来、新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」など急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力の育成のため、新学習指導要領の着実な実施、ICTの利活用により一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要であると示されました。

2 生涯学習を取り巻くわが国の状況

(1) 人生100年時代の到来

平成29年12月に取りまとめられた「人生100年時代構想会議中間報告」においては、「100年という長い期間をより充実したものとするためには、生涯にわたる学習が必要である」ことなどが述べられており、生涯学習の重要性が一層高まっています。

一方で、高度情報化の進展やAI、IoT等の急速な技術革新の進展により、社会や生活を大きく変えていく超スマート社会(Society 5.0)の実現に向かっていきます。こうした変化に対応する知識やスキルを身につけ、生涯学習の学びの機会や様々な活動に活かしていくことが求められています。

(2) 働き方改革と社会人の学び直し

近年、中高年の再雇用の定着、女性の社会進出による就労率の高まりなどが進行し、国民一人一人が、生涯を通じて、職業能力の向上や新しい知識や技術の習得、専門的な知識や知見を仕事に活かすための社会人の学び直し(リカレント教育)をより一層推進していくための生涯学習活動の環境整備や、学校等の連携の強化による、講座等の充実や学習機会の増加が求められています。

また、企業も多様な人材が活躍できるように従来の男性片働き世帯が多い時代の「フルタイム、残業・転勤あり、仕事一筋で定年まで」という働き方を改革しつつあります。若いときからその時々的人生ステージにおいて全ての人々が、それぞれの希望に応じた様々な働き方、学び方、生き方を選べるようになることが求められています。

(3) 社会経済情勢の急激な変化

グローバル化や情報通信技術の進展で、様々な文化・価値観が国境を越えて流動化し、変化の激しい先行きが不透明な社会に移行しています。

わが国は少子高齢化の急激な進行、かつ生産年齢人口の減少等の問題に直面しており、こうした人口構成の変化が社会に与える影響を踏まえると、子どもや働き盛りの世代の人々そして高齢者がそれぞれの能力を活かし、力を合わせて、豊かで安心して暮らせる地域や社会を次代に引き継ぐことができるよう、少子高齢化に対応した教育環境の整備に努めることが重要となります。

(4) 地域コミュニティや地域活動の変化

全国的に、人々の付き合いが疎遠になるなど、地域コミュニティの機能低下が懸念されています。加えて家庭では、三世帯世帯の割合が低下し、ひとり親世帯の割合が増加するなど家族の形態が変化しています。そのため、多くの住民が地域で、様々な活動を行い、住民の潜在能力や行動力を高めることのできる学習機会や環境を整備していくことが重要となります。

一方、平成7年の阪神・淡路大震災や平成23年の東日本大震災、平成28年の熊本地震などの災害からの復旧、復興に向けた取り組みの中で培われた、助け合いやボランティア精神など、人々や地域とのつながりの重要性が再認識されました。

また、令和2年以降は、新型コロナウイルスの感染拡大により、様々なスポーツ活動、地域活動の中止や、人数制限など、様々な生涯学習活動に大きな影響を与えました。今後も、社会活動に制限が加わるような社会情勢となった場合にも、生涯学習活動が滞ることのないよう「新しい生活様式」を取り入れた、活動の在り方、実施方法の確立が求められています。

(5) 社会の継続的な成長・発展を目標とする国際的な取り組みを促進

グローバル化社会の進展に伴い、国境を越えた交流がますます拡大している中で、日本の文化や歴史を大切にしつつ、多様な考えや文化についての理解や、コミュニケーション能力の育成などが求められています。また、持続可能な開発目標（SDGs）をはじめとした社会の継続的な成長・発展を目標とする国際的な取り組みも広がっています。国は平成28年に「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」を策定し、持続可能で強靱、そして誰一人取り残されない社会の実現に向けた取り組みを推進しており、生涯学習推進計画においてもこの理念を踏まえた事業の展開が求められています。



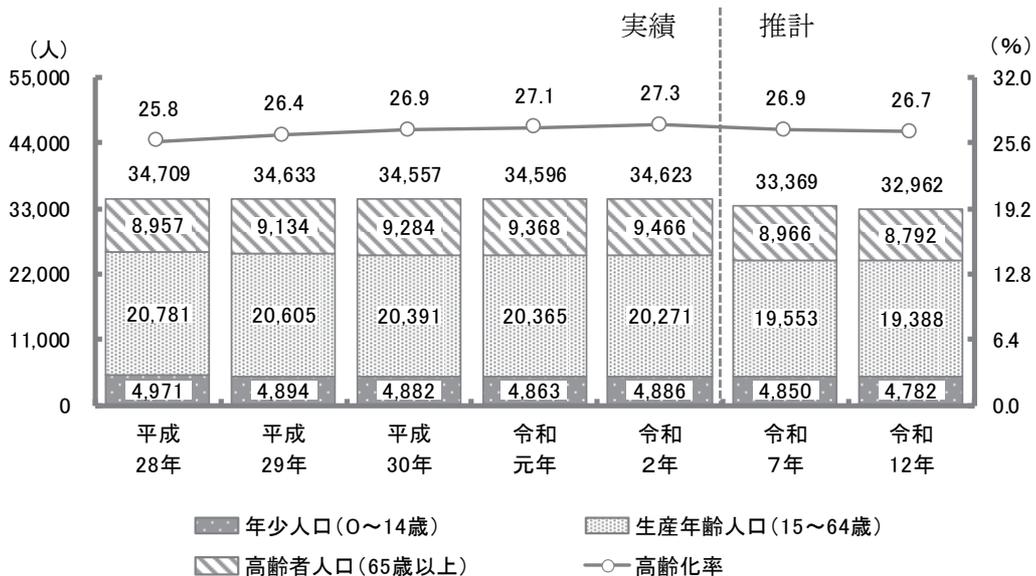
3 生涯学習を取り巻く播磨町の状況

(1) 人口の推移と推計

本町の総人口は、横ばい傾向にあり、令和2年10月1日時点において34,623人となっています。一方、高齢者人口、高齢化率は増加しており、令和2年に高齢者人口が9,466人、高齢化率が27.3%となっています。

将来推計人口をみると、今後は、総人口、高齢者人口、高齢化率ともに減少傾向に転じ、令和12年に総人口が32,962人、うち高齢者人口が8,792人で、高齢化率が26.7%と推計されます。

年齢3区分別人口の推移と推計



資料：実績は播磨町の人口（各年10月1日現在）
推計は第5次播磨町総合計画目標人口より

(2) 町民アンケート調査からの現状

■ 調査の概要

○ 調査の目的

生涯学習推進計画の策定の基礎資料として、調査を実施しました。

○ 調査対象

播磨町在住の20代から80代の方を無作為抽出

○ 調査期間

令和2年10月20日から令和2年11月9日

○ 調査方法

郵送による配布・回収

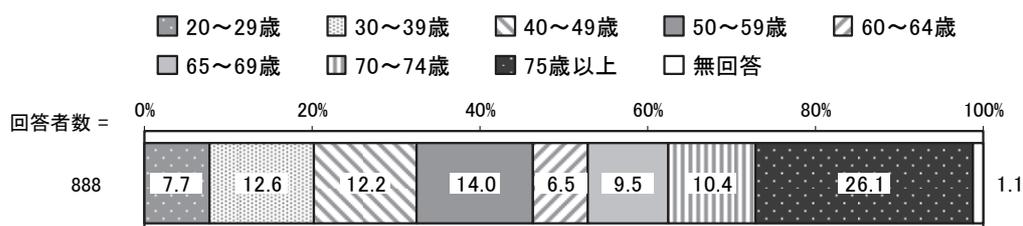
○ 回収状況

配布数	有効回答数	有効回答率
2,000 通	888 通	44.4%

※資料編の「生涯学習についてのアンケート調査」参照

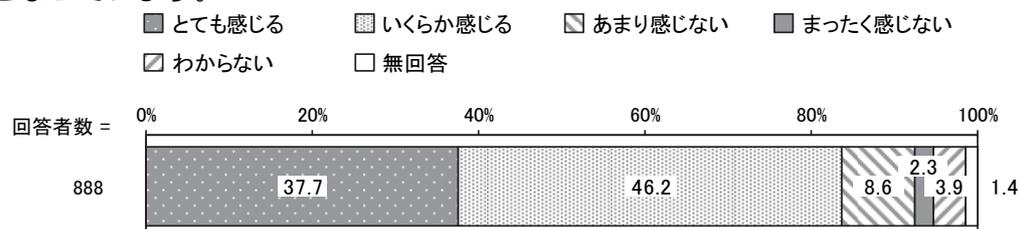
① 年齢構成

「75歳以上」の割合が26.1%と最も高く、次いで「50～59歳」の割合が14.0%、「30～39歳」の割合が12.6%となっています。



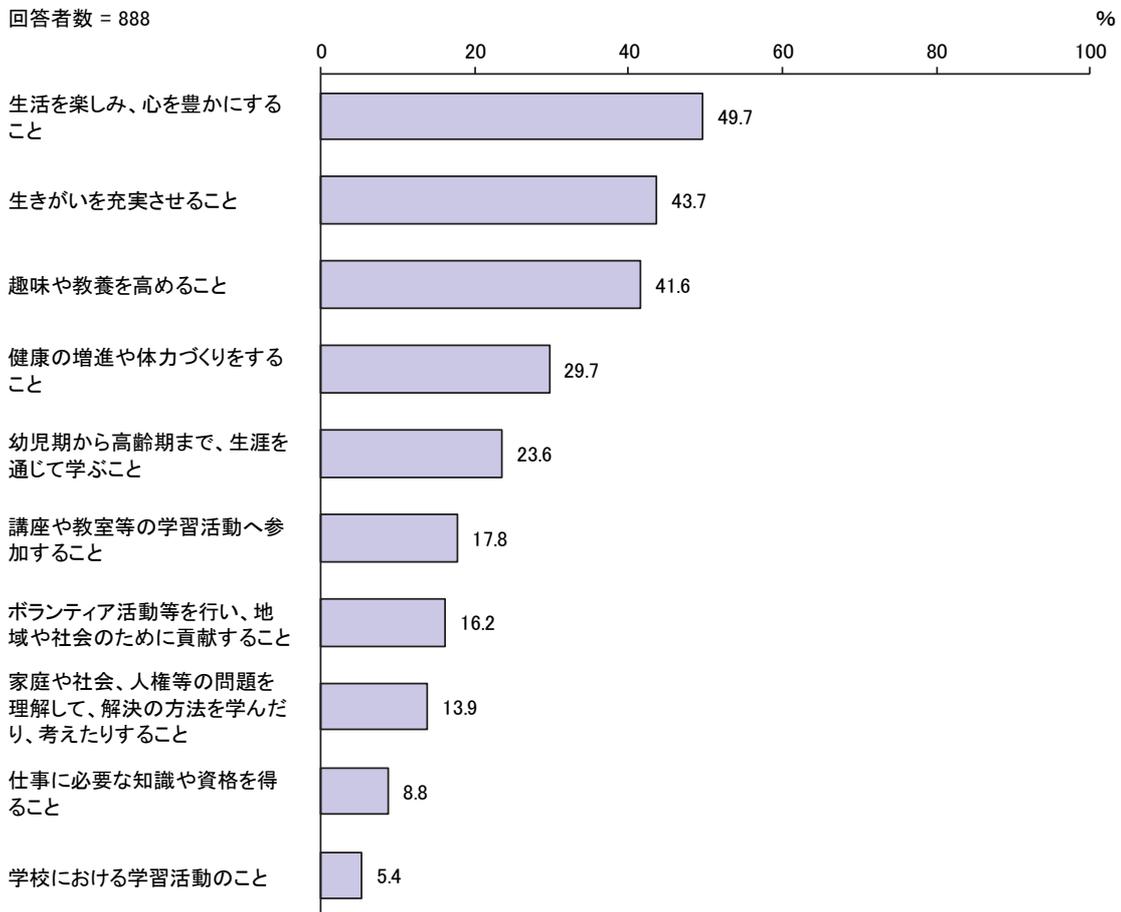
② 播磨町に対する親しみや愛着（単数回答）

「いづらか感じる」の割合が46.2%と最も高く、次いで「とても感じる」の割合が37.7%となっています。



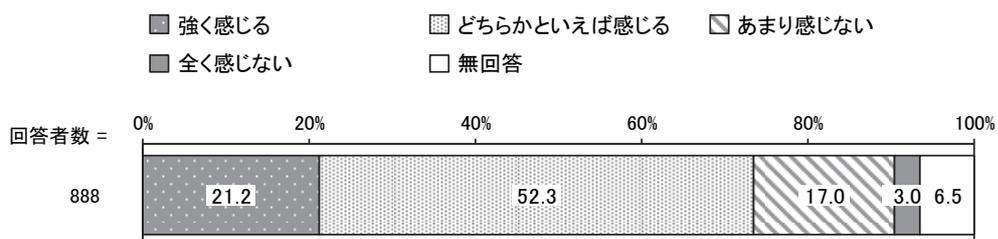
③ 「生涯学習」のイメージ（複数選択）

「生涯学習」のイメージは、「生活を楽しみ、心を豊かにすること」の割合が49.7%と最も高く、次いで「生きがいを充実させること」の割合が43.7%、「趣味や教養を高めること」の割合が41.6%となっています。



④ 「生涯学習」の必要性（単数回答）

「生涯学習」の必要性については、「どちらかといえば感じる」の割合が52.3%と最も高く、次いで「強く感じる」の割合が21.2%、「あまり感じない」の割合が17.0%となっています。年齢別でみると、40～64歳で「強く感じる」の割合が高くなっています。



(3) ヒアリング調査からの現状

■ 調査の概要

播磨町生涯学習推進計画を新たに策定するにあたり、アンケートでは聞き取ることができない播磨町の生涯学習を取り巻く現状を把握するため、以下の生涯学習関連団体を対象にヒアリング調査を実施しました。

- ① 青年層の生涯学習に関する団体（播磨ゆめづくり塾「マチで暮らそう。はりまで育ち塾」）
- ② 子どもの生涯学習に関する団体（放課後子ども教室「みんなでアソビバ」）
- ③ 高齢者の生涯学習に関する団体（播磨町シニアクラブ連合会）
- ④ 特別な支援を必要とする子どもたちの生涯学習に関する団体（播磨町手をつなぐ育成会）

※資料編の「生涯学習推進計画策定のためのヒアリング調査」参照

○ 生涯学習活動をする上でのモチベーション

- ・生涯学習活動をしたいと思っても行う機会やきっかけがない人たちに対して、学習の動機づけを行うことができていると感じられることが、モチベーションとなっている。
- ・活動を通じて、新しい出会いがあることや、人と人とが笑顔で集まってくることが一番の原動力になっている。

○ 活動を行う中で抱えている課題について

- ・コロナ禍で参加人数の制限などがあり、大勢の人を集めてのイベントを開催できない状態であることに加えて、ボランティアの集まりが少ないなど、立ち上げに携わっていただけの人が少ない。
- ・高齢化が進んでいることを課題とする意見が多くあるとともに、最近の高齢者は時間等に余裕があるが、個人個人で気の合う仲間との交流に軸足を置いているため、団体の役員などの就任を避ける傾向がある。

○ 播磨町に期待すること、特に重点を置いてほしいこと

- ・播磨町は高齢者や子育てについては支援が充実していると感じている。しかしながら、若い人たちに対して何を求めているかがわかりにくい。

- 経験豊富な人生を何かの役に立てたいという人材が多数存在しているが、その人材を播磨町の役に立てていく手法をもっと考えるべきだと思う。
- 元気な高齢者に介護予防・認知症予防の担い手になってもらう事業などを立ち上げれば、自身の介護・認知症予防にも直結する。事業として成り立てば、生きがいともなり得る。
- 障がい者の目線に立った施策を実施してほしい。
- 町がオンラインを活用して情報を発信すれば、障がい者の学べる環境をつくることができると思う。
- 全ての子どもたちが年齢を問わずに、いつでも集える場所として、播磨町が生涯学習の拠点を作ってほしい。そこが中心となって既存の施設を巻き込みながら学習機会をつくっていくべきだと思う。

(4) 第3次計画に向けた現状と課題

生涯学習に関する制度等の推移や生涯学習を取り巻くわが国の状況、生涯学習を取り巻く播磨町の状況を踏まえ、SWOT分析（おかれている現状を分析し、方向性や改善点を見つけ出すフレームワーク）により、本町の生涯学習を取り巻く現状を“強み”と“弱み”、“機会”と“脅威”に整理しました。

播磨町において 充実していること【強み (strength)】	播磨町において 問題となっていること【弱み (weakness)】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内で最も小さいコンパクトなまち ・ 大中遺跡や愛宕塚古墳など歴史と文化が息づくまち ・ 憩いや交流の場において水と緑に親しむことができる ・ 大都市や近隣市町への交通アクセスがよく交通利便性が高い ・ 温かい人間関係で結ばれた住みよい地域 ・ 子育て環境の充実 ・ 少子化が進行するも、年少人口の比率は県内で上位 ・ 暮らしやすいと感じている住民が85% (総合計画策定アンケート調査) <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会教育施設の計画的な改修が今後求められる(施設の老朽化) ・ 自ら学ぶ機会と学習する場の不足 ・ 生涯学習関係団体の構成員の固定化と高齢化 ・ 健康意識やスポーツへの関心の高まりに対応できる機会と環境整備 ・ 住民の文化財保護に対する意識の不足 ・ 各種行事を支える指導者やボランティアの高齢化(新たな担い手不足) ・ 「生涯学習の充実」の満足度・重要度ともに総合計画に基づく施策の中では平均を下回る <p style="text-align: right;">など</p>
国等の動向、社会的背景 【機会 (opportunity)】	社会的な問題 【脅威 (threat)】
<ul style="list-style-type: none"> ・ グローバル化 ・ IOT及びビッグデータ、AIなど第4次産業革命の進展 ・ 持続可能な世界を実現する国際目標 ・ 人生100年時代を背景とした「生涯学習社会」実現の取り組み(リカレント教育) ・ コロナ禍による新しい生活様式の浸透 ・ 求められる能力や社会基盤の変化 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化、核家族化の進行 ・ 地域社会における人間関係の希薄化 ・ 人口減少に伴う、地域社会の空洞化と学校再編 ・ 運動不足による生活習慣病の増加 ・ 子どもの体力の低下 ・ 積極的にスポーツに取り組む層と取り組まない層の二極化の進行 ・ 新型コロナウイルス感染症拡大による外出の減少 ・ シンギュラリティの到来(人工知能が人類の知能を超える転換点) <p style="text-align: right;">など</p>

上記の現状を踏まえ、アンケート調査やヒアリング調査結果を基に、第2次計画の柱ごとに、第3次計画に向けた課題を整理しました。

① 「生涯学習の基礎づくり」について

生涯学習に関するアンケート調査（以下「アンケート調査」という。）をみると、学習活動をした場所や形態について、「中央公民館やコミュニティセンター、スポーツ施設などの公の機関における講座や教室」の割合が最も高く、年齢別にみると、60歳未満で「情報端末やインターネット」や「個人または自宅での学習活動（家庭教育や書籍など）」の割合が高くなっています。

学習活動をより盛んにしていくために、播磨町で力を入れるべきことについて、「播磨町のホームページで生涯学習情報を充実させる」、「講座をインターネットで予約できるようにする」の割合が高くなっています。

特別な支援を必要とする子どもたちの生涯学習関連団体のヒアリング調査では、障がい者の意見を反映した施策を実施して欲しいと意見がありました。

若年層や子育て世代が必要としている仕事や子育て等に関する情報など、ライフスタイルの多様化を踏まえ、町民一人一人のニーズに応じた自主的に学べる機会の充実化が求められています。また、ICTやAI、IoTなどの急速な技術革新が進んでいることを背景に、ICTの活用による誰もが学べる環境の整備が求められています。

② 「新しい自分づくり」について

本町では、誰もが気軽に生涯学習活動に参加できるよう多くの学習機会を提供することや、継続して生涯学習に取り組めるよう、住民ニーズを把握した学習機会の提供に努めてきました。

町内の施設の利用状況をみると、中央公民館、図書館、郷土資料館、野添コミュニティセンターと西部コミュニティセンター利用者数は減少傾向にあり、東部コミュニティセンターと南部コミュニティセンター利用者数はやや増加傾向にあります。また、総合体育館、野球場、浜田テニスコート、秋ヶ池運動場、はりまシーサイドドーム、うみえーる広場の利用者数は減少傾向にあります。

アンケート調査をみると、播磨町への親しみや愛着について、「感じる」の割合が8割以上、生涯学習の必要性についても「感じる」の割合が7割以上と高く、「生涯学習」のイメージについて、「生活を楽しむ、心を豊かにすること」「生きがいを充実させること」「趣味や教養を高めること」が上位に挙げられています。しかしながら、自分が経験したことで一番印象に残っている内容については、「経験したことがない」の割合が約5割と高くなっています。

また、最近1年間の学習活動については、「健康・スポーツ」「趣味的なもの」の割合が高く、学習活動をした場所や形態については、「中央公民館やコミュニティセンター、スポーツ施設などの公の機関における講座や教室」の割合が最も高くなっています。

す。そして、学習活動をする目的について、若い人は「その学習が好きであったり、人生を豊かにするため」の割合が高く、高齢者は「健康の維持・増進のため」の割合が高くなっています。

生涯学習の場として、町内施設を活用することは重要であることから、現在も各施設で行われている様々な活動について、参加を促すような周知を図ることが必要です。

それぞれの生活様式により、活動できる時間や場所等が限られてしまうことから、「いつでも」、「どこでも」、「気軽に」生涯学習活動が行える学習機会を推進していくことが必要です。グローバル化による生涯学習に対する関心の高まりや学習要求の多様化に応えるため、自ら学ぶ機会と学習する場の提供と支援が必要となっています。

また、子どもの生涯学習関連団体へのヒアリング調査では、子どもが育つ環境として、子育て支援サービスが充実しているなど、強みを持っているとの意見がありました。

子どもの学校教育だけでなく、一人一人が主体的に社会に関わるために、地域の学習資源に触れることや、様々な人権課題に対応した学習や国際的素養を育む学習のほか、男女共同参画の視点に立った取り組みを推進する必要があります。

③ 「循環型学習社会づくり」について

地域活動や各種団体活動において担い手が不足しており、対応策としては人材の確保と共に育成が大切です。人材の確保と育成は、地域の活性化や自立した地域づくり、人と人との絆づくりに寄与します。

アンケート調査をみると、生涯学習を通じて身につけた知識・技能や経験を、地域や社会での活動に活かしていきたいと思う人の割合が4割弱、特に65歳未満では約5割となっています。

学びの成果を自己実現とともに他者へ還元し、さらに地域の活性化、コミュニティづくりや課題解決に活かし、また新たな学びに繋げていく循環型学習社会が求められています。

また、生涯学習関連団体の構成員の固定化と高齢化が進んでおり、各団体の活性化や活動継続への支援が必要となっています。一方で、高齢者の生涯学習関連団体のヒアリング調査では、経験豊富な人生を何かの役に立てたいという人が多数存在しているという意見があることから、自身の健康づくり・生きがいづくりが地域づくりとつながる施策展開が求められています。

今後、学習の成果を適切に活かすことは、生涯学習社会の構築には欠かすことができないため、発表の場の提供はもとより、学習成果を活かす仕組みづくりや体制づくりをすすめる必要があります。

④ 「人と人とのネットワークづくり」について

町民の中には、様々な分野の専門的知識・技術等を持っている人や地域で地道な活動を続けている人がいます。

また、アンケート調査をみると、生涯学習に関する情報の便利な入手方法については、「播磨町が発行するチラシ、ポスター」や「広報はりま」の割合が最も高く、次いで「自治会の回覧板や掲示板、地域住民からの連絡」「播磨町が発行する生涯学習ガイドブック」となっています。なお、年齢別にみると、30歳以上で「播磨町が発行するチラシ、ポスター」や「広報はりま」の割合が高く、20～29歳では「情報端末やインターネット」の割合が高くなっており、入手方法について違いがあります。

さらに、生涯学習を通じて身につけた知識・技能や経験を、地域や社会での活動に活かしている場面について、「日常生活の中で活かしている（家事など）」の割合が36.6%と最も高く、次いで「仕事に活かしている」「ボランティア活動をしている」となっていますが、「どのような活動に活かすことができるのかわからない」人も一定数います。

生涯学習関連団体のヒアリング調査では、生涯学習関連団体側において、これまで生涯学習活動をしたと思っていても行う機会やきっかけがない人たちに対して、学習の動機づけを行うことができていると感じられることが、モチベーションとなっているという意見があります。

学習した成果を何らかの形で地域に還元したいと考えている人々の、地域活動に理解を深め、自発的な取り組みを引き出し支援する必要があります。また、地域における生涯学習を支える人材の確保及びその活用に取り組む必要があります。

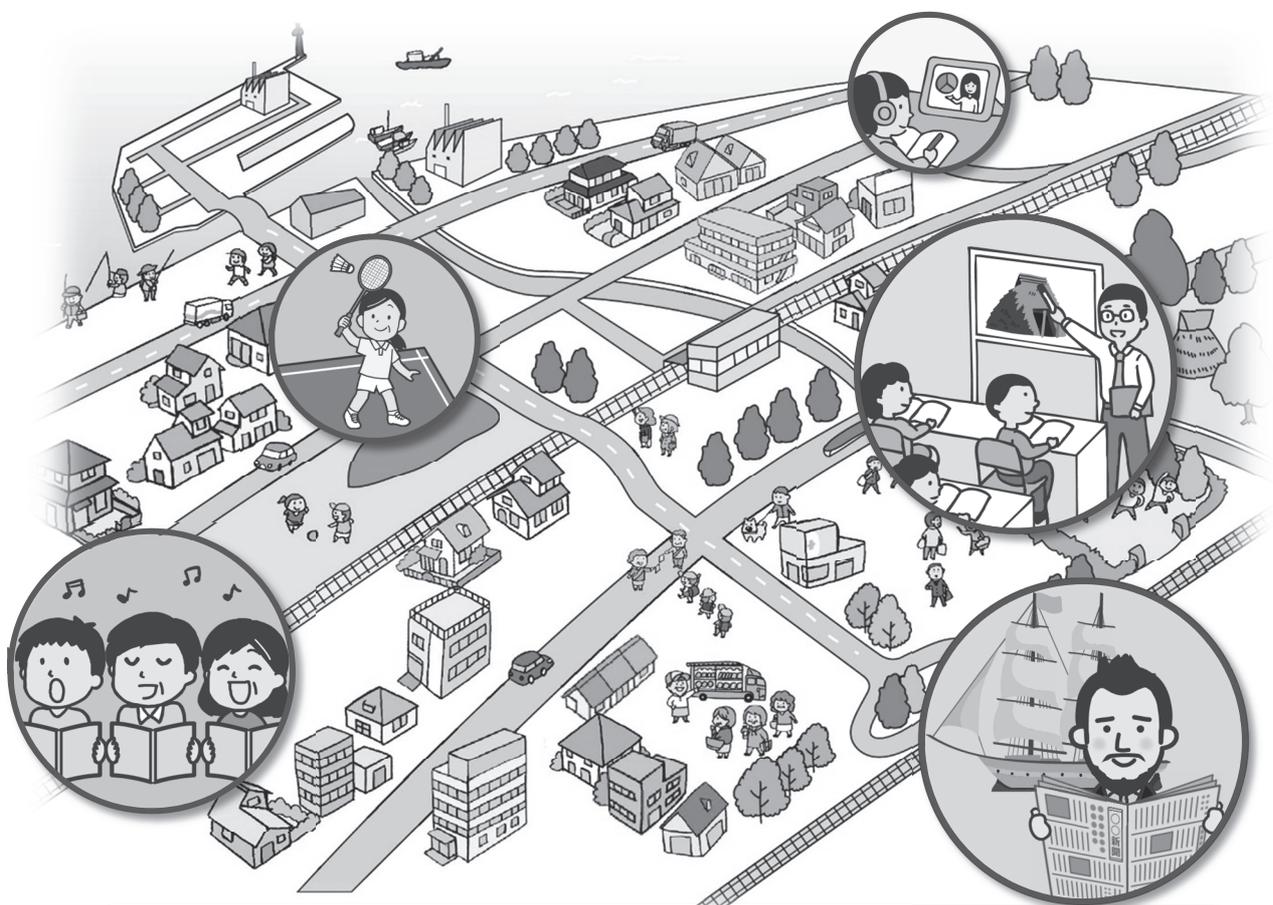
生涯学習をはじめたいと感じた住民がスムーズに行動に移せるようにするために、学びのきっかけとなる学習情報を効果的に届けられるよう、ICTの活用も含め住民のニーズに対応したより効果的な情報発信を行っていく必要があります。

■ 第3次計画に向けた現状と課題（まとめ）

- ① 「いつでも」、「どこでも」、「気軽に」生涯学習活動が行える学習機会を推進していくことが必要【学びづくり】
- ② 学習成果を活かす仕組みづくりや体制づくりをすすめ、人と人との絆づくりをすすめていくことが必要【人づくり】
- ③ 一人一人の生涯学習活動が、地域の活性化、コミュニティづくりや課題解決に活かせる仕組みをつくっていくことが必要【まちづくり】

1 基本理念

「人生 100 年時代」の到来により、人生の各ライフステージにおいて、「いつでも」、「どこでも」、「気軽に」、生涯にわたり自ら学び、学ぶことを通して自己実現や生活の質の向上を図るとともに、その学びを社会に還元し、町民が“学んで楽しい”と思える生涯学習活動ができるまちを目指し、下記を基本理念とします。



みんなの“楽しい”が見つかる・見つける・つながる 生涯学習のまち

基本的視点

- ◇「学び」ができる環境をつくる
- ◇「自立」ができる人を育てる
- ◇「創造」ができる力を高める

2 基本目標

基本目標 1 誰もが生涯を通じて学ぶことができる機会の充実

～学びづくりへの取り組み～



自ら学び・考え、主体的に判断し、行動し、問題を解決できる力を身につけていくためには、様々な場面で「学びに向かう姿勢」を支えていくことが必要です。

すべての町民が生涯学習に取り組むことができるよう、生涯学習へのきっかけづくりに取り組み、「新しい生活様式」に配慮しつつ、多様な学習ニーズに対応したメニューや機会を提供します。

特に、働き世代の成人期における学びの支援として、働き盛り世代に必要なテーマの講座の充実や、生涯学習に取り組みやすい環境条件づくりをすすめます。

加えて、幅広い教養を身につけることや、キャリア形成のための研修、ビジネススキルの向上など、社会人が学べる環境づくりに取り組むとともに、公民館やコミュニティセンター等の各地域の生涯学習施設と連携を図り、役割を明確にしながら、地域と一体となった生涯学習に取り組めます。

また、情報通信社会の進展に伴い、ICT等を活用した新たな学びと活動の場の創出に努めます。

基本目標 2 一人一人が輝く人材づくりの推進

～人づくりへの取り組み～



身近な生活に潜むリスクへの対応、グローバル社会の進展など、生きる上で自らの選択が求められています。すべての町民が、自ら課題探求に取り組み、判断し、行動することができるよう、町民の学習ニーズに対応できる生涯学習社会の進展に向けて、地域における人・ボランティア・団体の連携、学校との連携、国際交流など、協力や協働等を促進し、生涯学習活動を支える担い手の育成に努めます。

また、学びづくりやまちづくりの新たな担い手の発掘・育成に努め、学んだ成果を発揮するとともに、社会貢献や社会奉仕ができるよう、学習機会の提供や社会活動への参加・参画への支援に取り組めます。

基本目標3 学びを地域の発展に活かすことができる環境の充実

～まちづくりへの取り組み～



本町の文化財、地域行事や伝統を活かした学びを創り出し、生涯にわたって学びや楽しみを共有できる地域学習社会を“創造”していくことが求められています。

豊かな生活を目指すとともに、地域の問題や地域課題を解決するための学習機会の充実を図ります。また、学校、家庭、地域等の相互の連携・協力によって生涯学習活動を推進し、家庭と地域の教育力を高め、地域コミュニティづくりをすすめます。

また、人口の減少が想定される中、人口減少に歯止めをかけるためにも、郷土に対する誇りや愛着を深めるとともに、地域の資源を活かすことで自然や文化、歴史、伝統芸能等を学習、体験する機会を創出していきます。

本計画で関連すると考えられるSDGsの目標	
<p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	目標3. すべての人に健康と福祉を
<p>4 質の高い教育をみんなに</p>	目標4. 質の高い教育をみんなに
<p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	目標11. 住み続けられるまちづくりを
<p>17 パートナリシップで目標を達成しよう</p>	目標17. パートナリシップで目標を達成しよう

3 施策の体系

基本理念及び基本目標を実現するため、次の基本施策をもって推進していきます。
なお、特に重点的に取り組む基本施策を《重点施策》として、次のように設定します。

基本目標 1 誰もが生涯を通じて学ぶことができる機会の充実 ～学びづくりへの取り組み～

- 基本施策 1 ライフステージに応じた生涯学習へのきっかけづくり 《重点施策》
 - 2 自己を高めるための学び直しへの支援
 - 3 生涯学習の情報提供の充実 《重点施策》
 - 4 生涯学習推進体制の充実

基本目標 2 一人一人が輝く人材づくりの推進 ～人づくりへの取り組み～

- 基本施策 1 町民の学びの成果の活用と生涯学習を支える人材の育成 《重点施策》
 - 2 地域人材の発掘と活用
 - 3 サークル・団体の継続的活動の支援

基本目標 3 学びを地域の発展に活かすことができる環境の充実 ～まちづくりへの取り組み～

- 基本施策 1 地域課題や生活課題の解決のための生涯学習の充実
 - 2 学校、家庭、地域・団体の連携促進によるコミュニティづくりの推進 《重点施策》
 - 3 地域に関する学習機会の充実 《重点施策》

4

数値目標（成果指標）

以下の項目において、基準値よりアップを目指します。

指標名	基準値
生涯学習、スポーツ活動、 文化・芸術活動の満足度 ※第5次播磨町総合計画より引用	3.1 (令和元年度)
社会教育施設の利用者数（延べ人数）	590,034人 (令和元年度)
生涯学習活動の実施率	50.7% (令和2年度)
生涯学習を通じて得たものを、地域や社会で活かしている、又は今後活かしていきたいと考える人の割合	38.9% (令和2年度)

（注）新型コロナウイルス感染症の拡大により影響のあった数値については、令和元年度の数値を引用しています。

※次ページ以降に掲載している事業については現在実施しているものであり、その他の取り組みについても推進計画に沿って、今後実施していく予定です。

1 誰もが生涯を通じて学ぶことができる機会の充実

～学びづくりへの取り組み～

人生 100 年を見据えたライフサイクルの中で、子どもから高齢者まですべての町民の学習ニーズに応えられるよう、それぞれの特性にあわせた学びの機会を充実します。特に、社会的に制約を受けやすい人（高齢者、障がい者、外国人、困難を抱える人々など）の学びの機会の充実を含め、誰もが生涯にわたりその能力を維持向上し続けることができるよう学習機会の整備をすすめます。

町民の学びのニーズを捉え、学びのきっかけとなるような事業の実施と情報提供を行い、子ども・若者から高齢者までが学びを軸としてつながり、多世代交流が活発になることで、世代間で好循環を生み出せる取り組みをすすめます。

(1) ライフステージに応じた生涯学習へのきっかけづくり 《重点施策》

重点施策とした理由

- ・人生 100 年時代の中、生涯学び続けられる環境が必要（生きがいづくり）
- ・社会情勢の変化により、生涯にわたって学び続けることが必要
- ・播磨町の中では成人（20～50 代）向け、特にビジネスパーソンの学びの場が少なく、ライフステージに応じた学びの場が必要

社会が変化しライフスタイルが多様化する中、町民のライフステージに応じた幅広い学習プログラムの提供と継続的な学習機会の充実を図るとともに、誰もが学習に参加しやすい環境づくりに取り組みます。

○ 乳幼児期

事業名	内容	所管
妊婦訪問 新生児訪問 未熟児訪問	保健師・助産師が妊娠・出産・子育てについて相談に応じます。	すこやか環境 グループ
たんぽぽ教室・ たけのこくらぶ	発達面で気になる子どもとその保護者を対象に遊びを通して支援します。	
育児相談	電話、面接、訪問等を通して、乳幼児を抱える方々の不安・心配について相談を行います。	
子育て相談	北部・南部子育て支援センターにおいて、保育士、臨床心理士が子育ての不安や悩みの相談を行います。また、保育所や主任児童委員による子育て相談を行います。	福祉グループ
子育て包括支援事業 (利用者支援事業)	子ども及びその保護者等、または妊娠している方が、教育・保育施設や地域の子育て支援事業等を円滑に利用できるよう、身近な実施場所で情報収集と提供を行うとともに、関係機関との連絡調整等を実施し、利用者に必要な支援を行います。	
保育サービス充実	働く家庭を支援するため、延長保育、一時預かり、病後児・障がい児保育など、保育サービスの充実に努めます。	
ひよこ教室	毎週1回、就園前幼児の園体験「ひよこ教室」を開催し、幼稚園児との交流による社会体験をすすめるとともに、就園前幼児の保護者に対する子育て相談を実施します。	
子育て支援 センター	子育て中の親子の交流促進や育児相談、情報提供を行い、子育ての孤立感・負担感の解消を図ります。また、NPOなど地域で活動している団体や保育所・幼稚園と連携を図りながら、子育て家庭の子育て力の向上を支援します。	福祉グループ
ファミリー サポートセンター	「子育てを応援してほしい人」と「子育ての応援をしたい人」を会員として、互いに子育てを支えあう「子育て相互援助活動」の推進を図ります。相互援助活動により子育てに対する負担を軽減し、安心して育児ができる育児環境を整備するとともに地域における子育て支援活動のさらなる推進を目指します。	

事業名	内容	所管
養育支援訪問	少子化及び核家族化により家庭と地域の子育て機能が低下してきている中で、養育支援が特に必要である家庭に対して、訪問相談や家事援助ヘルパー派遣を実施することにより、親の育児ストレス及び負担軽減を図ります。	すこやか環境グループ 福祉グループ
子育て家庭ショートステイ	保護者が病気等の理由により一時的に児童を養育できない場合、児童養護施設等で短期間預かります。また、DVによる暴力から母子を保護する観点からも、施設と連携し実施します。	福祉グループ
こんにちは赤ちゃん事業	生後4か月までの赤ちゃんがいる家庭を対象に、地域の民生委員・児童委員と主任児童委員が子育て家庭を訪問し、町の子育て支援に関して情報提供し、子育てに関する悩みや不安を聞くことにより、育児不安の軽減を図ります。また地域と子育て家庭をつなぐきっかけづくりを図ります。	福祉グループ
ブックスタート	乳児健診受診の親子を対象に、読み聞かせの大切さを説明し、絵本などが入ったブックスタートパックを手渡し、図書館利用や読書への動機づけを図ります。	図書館
児童サービス	図書館スタッフとボランティアが保育園、幼稚園など図書館以外の場所へ出向き、児童書の読み聞かせやストーリーテリングを行います。	図書館
療育事業	心身に障がいのある、または発達上何らかの心配のある18歳未満の子どもと保護者に対して相談や指導を行います。	すこやか環境グループ

○ 青少年期

事業名	内容	所管
小中学校情報教育	GIGAスクール構想の実現に向けて、小・中学校において導入した1人1台のタブレット端末を活用し、最先端のICT教育に取り組み、児童生徒が自ら考え、主体的に判断・表現・行動することのできる情報活用能力の向上に努めます。	学校教育グループ
自然学校事業	自主性、自立性、社会性等を育成するため、小学5年生全員を対象に宿泊を含む野外活動を実施します。	学校教育グループ
「トライやる・ウィーク」	自己を見つめ、自分の生き方を考え、心豊かにたくましく生きる力をはぐくむため、中学2年生全員を対象に、1週間の職場体験活動を実施します。	学校教育グループ

事業名	内容	所管
特色ある学校運営	「総合的な学習の時間」の趣旨やねらいを明確にし、校内推進体制を整え実施します。地域や学校、児童生徒の実態に応じて、創意工夫を活かした教育活動を実施します。	学校教育グループ
就学事務	障がいや特性の状態に応じた適正な就学支援を推進します。	
特別支援教育	インクルーシブ教育システムの理念のもと、一人一人の課題を明確にし、合理的配慮や特性に応じた指導の充実に努めます。特別支援教育啓発紙「どろんこ」等によって特別支援教育への理解と啓発を推進します。	
人権教育	人権への配慮の行き届いた人権尊重の学校文化を築きます。人権に関わる課題の解決に向け、総合的に取り組むための推進体制を整え、人権問題に積極的に取り組もうとする意欲や姿勢を培い、人権意識や自立向上の精神、思いやりの心などを育てます。	
福祉教育	障がいのある人や高齢者等との出会いや交流を通じて、それぞれの立場を思いやり、共に生きていこうとする態度を培う福祉体験活動の充実を図ります。	
環境教育	環境問題、環境保全への関心・理解を深め、よりよい環境の創造に向けた実践的な態度や能力を培います。	
環境体験学習	自然に対して畏れ敬う心、命の大切さ・美しさに感動する豊かな心を身につけるため、自然に触れ合う環境体験学習を行います。	
子ども美術展	幼稚園児・児童・生徒の造形感覚、創造性を育成するため、絵画等の展示を行います。	
芸術鑑賞	芸術への理解を深めさせるための取り組みを推進します。	
外国語教育 国際理解教育	幼稚園、小学校、中学校において、外国人英語指導助手を活用し、多文化理解やコミュニケーション能力向上に努めるとともに、国際理解教育を推進します。	
子どもいきいき スポーツ教室	小学生を対象に、ニュースポーツから競技スポーツまで、さまざまな種目を体験できるスポーツ教室を実施します。	スポーツクラブ 21はりま
青少年教育事業体験	学習や製作活動、館外研修を通じてふれあいを深め、青少年の発想や創造性を育むために、「子どもいきいき体験隊」「夏休み子ども教室」「新春書初めのつどい」「チャレンジ漢字」「ウインター教室」「播磨町少年少女将棋教室」等を実施します。	生涯学習グループ 中央公民館

○ 成人期

事業名	内容	所管
サークル活動の育成・充実	サークル活動を通じて、サークルの充実を図るとともに、心豊かな地域づくりのため、サークル活動で取得した知識・技術等の成果を活かしていく活動へと高めます。	生涯学習グループ 中央公民館 コミュニティセンター
郷土資料館特別展	毎年1回テーマを設定し、関係機関に文化財資料等の出展を依頼し、期間を定めて展示し、住民の郷土に対する理解と愛着を深め、併せて文化の向上に努めます。	郷土資料館
歴史講座	講師を招いて、郷土の歴史・考古・民族等についての講演会・講座を開催します。	
読書講座 (文化講演会事業)	読書講座、文学講座、講演会等を関係機関と連携を図り開催します。	図書館
文学講座 (文化講演会事業)		図書館 中央公民館
播磨町図書館を使った調べる学習コンクール	普段の何気ない疑問や問題を図書館資料を使って調べ、まとめた作品のコンクールを行います。上位入賞作品は、全国コンクールへ出品します。	図書館
健康・栄養相談	食事や健康づくりについての相談を行います。	すこやか環境グループ
健康づくり教室	健康づくり、仲間づくりのために継続した教室を開催します。	
健康講座	希望する団体・グループ等に健康づくりについての講座を開催します。	
健康大学	加古川医師会の医師が健康や病気予防について分かりやすく講演します。	
スポーツ・レクリエーション推進	各種スポーツ・レクリエーション大会や教室の開催及び指導者の育成等に努め、住民すべてが健やかに育ち、健やかに老いることを目標に、スポーツ・レクリエーションの生活化を推進します。	生涯学習グループ
地域スポーツクラブへの支援	地域の誰もが各ライフステージにあわせて、スポーツ活動が実践できるようにスポーツクラブを支援します。	

○ 高齢期

事業名	内容	所管
シニア元気アップ 出前講座	地域のいきいきサロンなど高齢者の集まりに健康講座の講師を派遣し、介護予防の基本的な知識の普及啓発を図ります。	保険年金グループ
いきいき 100 歳 体操教室	住民自主運営による地域の集会所などで開く地域教室で、運動継続による体力づくりとともに、住み慣れた地域で支えあいの促進と絆づくりを目指します。	保険年金グループ スポーツクラブ 21 はりま
介護支援ボラン ティア養成講座	平成 24 年度より開催し、講座修了者は介護支援ボランティアグループ「結・はりま」に登録しボランティア活動に参加しています。活動は、施設、住宅で介護予防についての話し相手になったり、高齢者の集いの場所となるカフェを開設しています。	保険年金グループ

(2) 自己を高めるための学び直しへの支援

出産や子育て等、ライフステージに対応した活躍支援や、若者の活躍促進等の観点からも、社会人の学び直し(リカレント教育)の推進がより一層求められているため、社会人が学びやすい環境整備を行い、学習への支援を推進します。

事業名	内容	所管
ことぶき大学 (高齢者教育事業)	ことぶき大学を運営して教養の向上及び生きがいづくりを支援するとともに地域社会のリーダーを養成します。	中央公民館
ふれあいいきいき サロン	高齢者が地域で気軽に集えるサロンを開設・運営する自治会を支援します。	福祉グループ
シニアクラブ	シニアクラブ及びシニアクラブ連合会の活動を支援します。	
成人向け講座の 充実 (成人教育事業)	「料理教室」「パソコン教室」「漢字検定」等を実施します。	中央公民館

(3) 生涯学習の情報提供の充実《重点施策》

重点施策とした理由

- 年代によって情報の入手方法が異なるため、生涯学習に関する情報の一元化が必要
- 学びのきっかけとなる学習情報が十分に届いていないため、町民への情報発信の方法についての検討が必要
- オンライン環境の急速な発展によるニーズの高まりや、学び方の多様化により時間や場所を限らない学習活動の提供が必要

生涯学習情報を町民が気軽に入手して活用していただけるよう、多様な情報提供をすすめるとともに、情報を見やすく、わかりやすくしていきます。特に、ICTの進展・普及により、よりタイムリーな情報発信・入手が求められていることから、より効果的な情報収集・情報発信の方法を研究し、総合的な情報発信体制を整えます。

また、町民の多様なニーズを学習活動に結びつけていくために、町民一人一人の学習相談に応じることのできる体制を整えていきます。

事業名	内容	所管
小中学校情報教育【再掲】	G I G Aスクール構想の実現に向けて、小・中学校において導入した1人1台のタブレット端末を活用し、最先端のICT教育に取り組み、児童生徒が自ら考え、主体的に判断・表現・行動することのできる情報活用能力の向上に努めます。	学校教育グループ
電子自治体への基盤整備	行政事務や行政手続きにICTを積極的に活用することにより、住民に対して行政情報の提供や行政事務の効率化を推進し、行政サービスの向上と簡素で効率的な行政システムの確立を目指します。	企画グループ
公共施設の情報化推進	中央公民館、図書館、体育館、郷土資料館や学校・園等のホームページを充実させ、施設の予約や情報発信などを積極的にすすめ、播磨町のホームページとリンクしたネットワークを構築します。	生涯学習グループ
人材や団体などの情報データの蓄積・活用	町内で文化・スポーツなどを指導している団体や個人、会員を募集している団体の情報を蓄積します。	
社会教育施設の維持管理	指定管理者との連絡調整を密にし、施設・設備を適切に維持管理します。	

事業名	内容	所管
生涯学習施設	中央公民館と各コミセンを生涯学習施設の拠点として有効活用します。	生涯学習グループ

(4) 生涯学習推進体制の充実

町民一人一人が主体的に生涯学習に取り組むことができるよう、庁内関係部署や施設間の連携を強化します。

また、町民の学習活動を支えるため、町職員を国・県などが主催する研修に参加させ、職員の資質向上を図ります。

事業名	内容	所管
公開講座	高等学校、大学等教育機関との連携により、公開講座・聴講生制度等の紹介を行います。	企画グループ 生涯学習グループ
子育て支援ネットワーク	すこやか環境グループ、福祉グループ、保育園、幼稚園、子育て支援センター、教育委員会（学校教育グループ、ふれあいルーム、生涯学習グループ）などによる子育てのための支援・指導体制の充実を図ります。	すこやか環境グループ 福祉グループ 学校教育グループ 生涯学習グループ
地域自立支援協議会	障がいのある人が地域で安心して日常生活を送れるよう支援するため、障がい者当事者、福祉、保健、教育、まちづくり活動団体などさまざまな社会資源のネットワークを活かした地域自立支援協議会の運営を行い、相談体制の確保、地域住民への啓発等を通じて障がい者支援体制を確立します。	福祉グループ
社会教育主事等の育成	社会教育主事講習などといった各種研修に職員を派遣するなどして、専門性を持った職員の育成に努めます。	生涯学習グループ

2 一人一人が輝く人材づくりの推進

～人づくりへの取り組み～

町民の学習ニーズに対応できる生涯学習社会の進展に向けて、地域における人・団体の連携や協働等を促進し、生涯学習活動を支える担い手の育成に努めます。

また、学びづくりやまちづくりの新たな担い手の発掘・育成に努め、学んだ成果を活用するとともに、社会貢献や社会奉仕ができるよう、学習機会の提供や社会活動への参加・参画への支援に取り組みます。

(1) 町民の学びの成果の活用と生涯学習を支える人材の育成 《重点施策》

重点施策とした理由

- 学びの成果を活かしたいという方々がアンケート結果からも一定数見受けられるため、学習成果を活かす仕組みづくりや体制づくりが必要
- 活動の受け皿となる団体と何か活動を始めたいという人を結びつけることが必要
- ボランティアの高齢化や固定化がみられるため、後継者を育成し、次の世代に学ぶ環境を繋いでいく事が必要

町民の学びと実践が循環し、地域の課題解決や持続的な発展につながるよう、中央公民館・コミュニティセンターなどの生涯学習施設を中心として学習成果を活かせる場や機会の充実を図ります。

また、学んだ成果を実践する場と町民の活動をつなげるコーディネーターの育成として、地域のリーダーを養成するため、研修会や講習会を実施します。さらに、社会教育に従事する町職員の資質・能力の向上を図ります。

事業名	内容	所管
ボランティアリーダー	誰もが安心して暮らせる地域づくりを推進するため、社会福祉協議会と協働して、ボランティア活動団体との連携を図るとともに、ボランティアやボランティアリーダーを養成します。	福祉グループ 社会福祉協議会
社会教育推進委員	自治会等における住民の自主的な文化活動やスポーツ・レクリエーション活動を推進するため、リーダーに必要な情報の提供や研修を行います。	生涯学習グループ

事業名	内容	所管
消費生活リーダー	播磨町消費者協会を中心に、講習会や講演会、勉強会の開催など啓発活動を実施し、知識の向上とリーダーの養成を図ります。	住民グループ
スポーツ指導者	いつでも、どこでも、誰でもが、継続的にスポーツに親しめる環境をつくるため、スポーツ指導者の発掘と養成、研修を行います。	生涯学習グループ スポーツクラブ 21 はりま
放課後子ども教室推進リーダー	子どもたちの安全・安心な活動拠点を設け、地域の人々を安全監理員やボランティアとして配置し、体験活動や地域住民との交流活動に取り組むリーダーを養成します。	生涯学習グループ
人権啓発推進リーダー	よりよい人間関係づくりを目指す「いきいきフォーラム」の実施に向けて、「いきいき活動推進委員」研修会等を行い、人権尊重のまちづくりリーダーの養成を図ります。	
防災リーダー	地域防災の担い手である自主防災組織等のリーダー育成を図ります。	危機管理グループ

(2) 地域人材の発掘と活用

地域社会や人のために役立ちたいという意思をもつ町民に対して、ボランティア活動の魅力や、やりがいを伝える学習機会を提供するとともに、町内で活動する様々なボランティア活動に関する情報提供を行います。

また、学習成果をボランティア活動等に結びつけていくための取り組みを充実していきます。

事業名	内容	所管
ボランティア支援	ボランティア連絡会への助成、各ボランティアグループ活動資材の整備、ボランティア活動費の助成、研修会や活動に関する情報提供、助言を行います。	福祉グループ 社会福祉協議会
ボランティアコーディネート	ボランティア活動希望者を登録し、関連のボランティアや活動団体との連携・協働を図り、活動先のあっせんを行います。また、登録者に対し、ボランティア災害共済への加入を促進し、安心して活動ができるようにサポートします。	
手話通訳者派遣	聴覚障がい者及び音声又は言語機能障がい者の社会生活におけるコミュニケーションを円滑に行うため、必要に応じ手話通訳者を派遣します。	

事業名	内容	所管
要約筆記者派遣	中途失聴者及び難聴者の社会参加におけるコミュニケーションを円滑に行うため、必要に応じ要約筆記者を派遣します。	福祉グループ 社会福祉協議会
声の広報	朗読ボランティア「のぎく」により、毎月発行される町広報、社協だより、議会だよりなどの内容をCDに録音し、視覚障がい者に対し情報を提供します。	
点訳	ボランティアグループ「ほほえみ」により、ゴミの収集日や時刻表など日常生活に必要な情報を提供するほか、教科書や小説など依頼のあったものについて、視覚障がい者に対する点訳活動を行います。	
播磨ゆめづくり塾	まちづくりに関するテーマをもとに、住民自らが塾長として塾を形成し、まちづくりを実践していきます。地域で活動するリーダーや団体の育成を支援します。	企画グループ
地域部活動推進事業の推進	令和5年度以降の休日の部活動の段階的な地域移行の実現に向け、専門的な知識や技術を有する地域指導者を配置するなど、生徒にとって望ましい持続可能な部活動の実現を図ります。	学校教育グループ

(3) サークル・団体の継続的活動の支援

サークル・団体の継続的な活動に向け、支援をするとともに、その活動が地域との関わりをもち、活動の幅が地域の中でさらに広がっていくよう、団体相互の交流を促進します。

事業名	内容	所管
サークル活動の育成・充実【再掲】	サークル活動を通じて、サークルの充実を図るとともに、心豊かな地域づくりのため、サークル活動で取得した知識・技術等の成果を活かしていく活動へと高めます。	生涯学習グループ 中央公民館 コミュニティセンター

3 学びを地域の発展に活かすことができる環境の充実

～まちづくりへの取り組み～

豊かな生活を目指すとともに、地域の問題や地域課題を解決するための学習機会の充実を図ります。また、生涯学習活動を通じて、学校、家庭、地域等の相互の連携・協力による教育力を高め、地域コミュニティづくりをすすめます。

また、人口の減少が見込まれる中、人口減少に歯止めをかけるためにも、郷土に対する誇りや愛着を深めるとともに、地域の資源を活かすことで自然や文化、歴史、伝統芸能等を学習、体験する機会を創出していきます。

(1) 地域課題や生活課題の解決のための生涯学習の充実

町民一人一人が、人権・平和・環境・情報化・国際化・少子高齢化・子育てなどの現代的課題や地域の課題を個人の課題として捉え、学習し、活動することによって、その解決につながるよう、学習機会を充実します。

事業名	内容	所管
環境学習会	地球の温暖化やごみ問題など、現在おこっている多種多様な環境問題について、児童を中心とした学習活動を実施します。また、町内に残された貴重な生き物の生息場所である喜瀬川とため池で、身近な自然に親しむ動植物観察会を実施します。	すこやか環境グループ
夏休みおもしろ教室	身近なこと、ものから「リサイクル」や「エネルギー」について学ぶ、親子で参加できる教室を関係機関と連携を図り開催します。	すこやか環境グループ 図書館
消費生活セミナー	消費生活問題に関するセミナーを実施します。	住民グループ
消費生活啓発活動	相談事例を基に啓発活動を実施します。	
消費者教育推進	学校等での消費者教育を実施します。	
交通安全教室	加古川警察署と連携し、幼児、児童、生徒、高齢者に向けた交通安全教室を開催します。	危機管理グループ
自主防災組織	地域の防災力を高めるため、自治会が結成している自主防災組織の活動を支援します。	
はりま津波ひなんウォーキング	津波から身を守る意識を高めるため、大中遺跡まつりにあわせ避難訓練を実施します。	
「ともに生きようふれあいのまち」映画会	人権文化をすすめる町民運動推進強調月間である8月に、人権について考える機会として映画会を開催します。	生涯学習グループ

事業名	内容	所管
「こころふれあう町民のつどい」講演会	12月の人権週間にあわせ、人権について考える機会として講演会を開催します。	生涯学習グループ
コミセンのつどい	人権尊重の地域づくりを考える場として、また周辺住民間の交流の場として、コミセンのつどいを開催します。	
いきいきフォーラム	あたたかい人間関係づくりがお互いの人権を尊重するまちづくりにつながることから、身近な問題を話し合う「いきいきフォーラム」を自治会とともにすすめます。	
人権尊重のまちづくり事業	自治会が人権尊重のまちづくりに向けて主体的に行う活動を支援します。	
戦没者追悼平和祈念式	戦没者の霊を慰め、戦争の悲惨さや平和の尊さを次世代に継承することを目的に、「戦没者追悼平和祈念式」を開催し、幅広い年代の住民参加を募ります。	企画グループ 福祉グループ
平和上映会	核兵器の怖さや戦争の悲惨さを認識し、平和の尊さや平和を守ることの大切さを学ぶ機会を提供することを目的として、戦争、平和に関する映画を上映します。	企画グループ
平和展	広島平和記念資料館等から借用した啓発用写真パネル、ポスター等を展示することにより、平和の尊さや平和を守ることの大切さを学ぶ機会を提供します。	
男女共同参画行動計画の推進	「播磨町男女共同参画行動計画」に基づき、男女共生社会の実現を図っていくため、広く住民・企業等にPRしていくとともに、総合的かつ効果的な推進体制を整備します。	生涯学習グループ
国際交流	播磨町と中華人民共和国天津市和平区・アメリカ合衆国オハイオ州ライマ市との友好都市・姉妹都市提携に基づき、相互理解と交流を深めるとともに、広く諸外国の人々との交流の促進を図ります。 また、「播磨町国際交流協会」の支援を行うとともに、内なる国際化に対応するため県や近隣市町とも連携しながら、住民主体の活動の促進を図ります。	企画グループ
福祉ボランティア養成	社会福祉協議会には、16グループ、約200人が福祉関係のボランティア登録をされています。 社会福祉協議会において、福祉関係のボランティアの養成（要約筆記、点訳、朗読などの初級講座、手話奉仕員養成講座、災害時支援ボランティア等）を行うとともに、情報誌「みてみて」を発行します。	福祉グループ 社会福祉協議会

事業名	内容	所管
福祉学習の推進	児童・生徒を対象に社会福祉への理解と関心を高め、ボランティア活動への参加を促すため、福祉学習校の指定を行います。	福祉グループ 社会福祉協議会

(2) 学校、家庭、地域・団体の連携促進による コミュニティづくりの推進《重点施策》

重点施策とした理由

- ・地域コミュニティの稀薄化などにより、子育て世帯への支援が必要
- ・学校だけでは解決できない課題に対する、保護者や地域との連携や協働が必要

播磨町では、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の取り組みの始動や、部活動の段階的な地域移行をすすめています。こうした取り組みや生涯学習活動を通じて、学校、家庭、地域等の相互の連携・協力による教育力を高め、より良い地域コミュニティづくりをすすめます。

事業名	内容	所管
コミュニティ委員会	コミュニティセンターを地域の生涯学習の拠点として、コミュニティづくりを推進します。	生涯学習グループ
播磨わくわく出前講座	町の施策や住民の方が興味のある制度や仕組みについて、住民の方からの要望に基づき、地域で出前講座を開催します。	企画グループ
播磨ゆめづくり塾【再掲】	まちづくりに関するテーマをもとに、住民自らが塾長として塾を形成し、まちづくりを実践していきます。地域で活動するリーダーや団体の育成を支援します。	企画グループ
住民協働推進事業	公益・非営利の法人や既に活躍されている住民活動団体の専門性・柔軟性を活かし、町の課題に協働で取り組みます。	
青少年育成事業	中学校区青少年育成推進委員会・子ども会育成連絡協議会等の支援及び青少年活動指導者の養成を行います。	
放課後子ども教室推進事業	すべての子どもを対象に、安全・安心な子どもの活動拠点（居場所）を設け、地域住民の参画を得て子どもたちと共に勉強やスポーツ、文化活動、地域住民との交流活動等の取り組みを推進します。	生涯学習グループ
放課後児童健全育成事業（学童保育事業）	小学校に就学している児童で、保護者が就労等により昼間家庭にいない児童を対象に、放課後の適切な遊び場、生活の場を提供し、健全な育成を図ります。	福祉グループ

事業名	内容	所管
家庭教育啓発	家庭や地域の教育力を高め、青少年の健全育成を図るため、保育園児・幼稚園児・小学生及び中学生の保護者を対象に、家庭教育学級並びに講演会の開催や家庭教育啓発資料の発行等を行います。	学校教育グループ
学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の推進	学校と地域が子どもの教育に対する課題や目標を共有し、連携・協力することで、「地域とともにある学校」への取り組みを推進します。	

（3）地域に関する学習機会の充実《重点施策》

重点施策とした理由

- ・郷土愛の醸成、地域への愛着が地域での生涯学習活動のモチベーション、きっかけとなるため、子どもの頃から地域に関する学習機会を充実することが必要
- ・播磨町から離れた人も戻るきっかけとなるよう、地域に関する生涯学習活動を行うことで郷土愛を持っている若者を増やすことが必要

まちの歴史と伝統文化に触れる機会を提供するとともに、文化財の調査・保護、伝統芸能・技能を伝えられる人材の育成や活用などをすすめ、歴史と伝統文化を保護・継承します。

事業名	内容	所管
親子文化財教室	歴史に対する認識を高めさせるとともに、知識の普及に資するため、親子を対象として、「古代の織物づくり」「土器づくり・土器焼き」等、歴史体験学習の機会を提供します。	郷土資料館
文化財保護啓発	大中遺跡・愛宕塚古墳等の町内文化財の管理・保護を行うとともに、文化財への関心と保護意識の高揚を図ります。	
大中遺跡まつり	大中遺跡公園を会場に、住民や各種団体の参画を得ながら、特色ある古代まつりを開催します。	
ふるさとの先覚者顕彰会	ジョセフ・ヒコや今里傳兵衛・梅谷七右衛門清政をはじめとする郷土の偉人について、資料収集や研究をすすめ、住民に情報発信します。	
町民文化祭	文化活動の成果を発表する場として、文化協会と協働し町文化祭を開催します。	生涯学習グループ

事業名	内容	所管
町美術展	芸術愛好家の発表の場として、美術協会と協働し町美術展を開催します。	生涯学習グループ
町菊花展	町の花である菊を愛し、美しい郷土をつくるため、菊花会と協働し町菊花展を開催します。	
公民館まつり コミセンまつり としょかんまつり (サークル育成事業)	サークル活動等の成果を発表する場として、公民館まつり・コミセンまつり・としょかんまつりを開催します。	中央公民館 コミュニティセンター 図書館
はりま風薫る フェスタ	大中遺跡公園及びその周辺を会場に、住民や各種団体の参画を得ながら、体験学習をメインとしたイベントを開催します。	生涯学習グループ

第5章

計画の推進に向けて

1 計画の周知と各種情報の収集・発信

本計画を着実に推進するため、計画に掲げた基本理念や基本目標などが教育関係者や保護者をはじめ町民に幅広く理解されるよう、広報誌やホームページなどを活用することによって、内容の周知に努めます。

また、教育に関する研修や出前講座など、さまざまな機会を捉えて、関係者のみならず、対外的に情報発信するとともに、町民からの意見やニーズを把握し、その施策への反映に努めます。

2 連携・協働による計画の推進

学校・家庭・地域・行政（教育委員会）が一体となって、本計画を推進します。

また、関係機関、各種団体、ボランティア・NPOなど、各分野における多様な主体との協働により、地域社会全体で生涯学習に取り組む環境づくりをすすめます。

（1）学校

学校は、基礎的な学力を定着させ、学力の向上を図るという重要な役割を担います。さらに、体験活動を充実させ、主体的・対話的で深い学びを通して、社会とつながり、自ら考え、学ぶ意欲や集団生活の中で他者を思いやる心や健やかな体を育みます。

（2）家庭

家庭は、規則正しい生活習慣の定着や規範意識の育成・家庭学習を担います。また、子どもの精神的な支えとなり、思いやりの心や情操を育む場としても重要な役割を担います。

(3) 地域

地域は、子どもたちを見守り、学校や家庭での教育のサポートを行います。例えば、通学における子どもたちの安全の確保や、地域行事の実施などによるふるさとに対する愛着の醸成を担います。

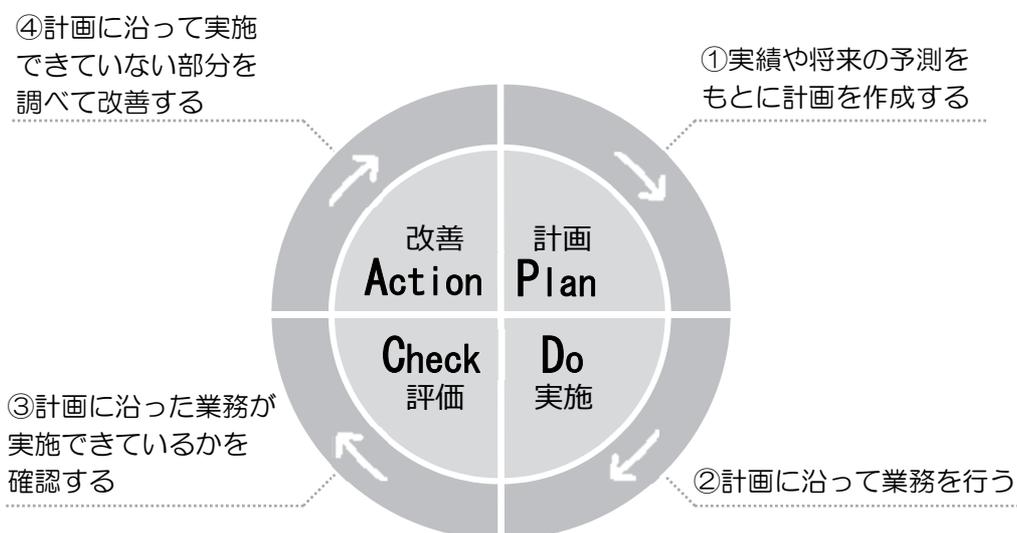
さらに、すべての住民が地域社会の構成員として社会参加できるような機会を確保し、学校支援などの社会課題や地域課題に取り組みます。

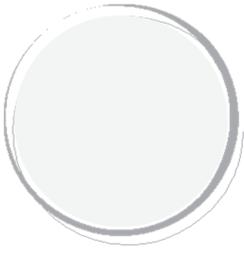
(4) 行政（教育委員会）

本計画に掲げられた施策を総合的に推進するため、庁内の関係部署との緊密な連携を図りながら、進捗状況を管理します。また、本計画の推進にかかる適切な事業経費配分にも十分に留意して、実効性のある計画推進に努めます。加えて、学校・家庭・地域の全体をコーディネートし、それぞれが最大限に力を発揮できるように支援します。

3 進捗状況の点検・評価及び計画の見直し

本計画を効果的かつ着実に推進するため、5年後に向けての成果指標にもとづくPDCA（計画・実施・評価・改善）サイクルにより、点検・評価を行いつつ、施策の実行に努めます。また、本計画は策定から5年後を目途に見直しを行います。なお、計画期間の途中であっても、教育を取り巻く新たな課題に対し迅速かつ適切な対応を行うために、成果指標を含めた計画の見直しを行っていきます。





資料編

1 播磨町の宣言

町章



播磨町の「ハリマ」を図案化したものであり、下側の開いた部分は港を表現しており、播磨町が港を中心に末長く栄えるようにとの願いが込められています。

シンボルマーク



人と人が心をかよわせあいながら信頼関係を築き、「共に生きようとする」姿を表現し、色は対話のある温かい人間関係と差別のない明るい未来を表わしています。

播磨町住民憲章

歴史を物語る古代の村、自然の恵みと先人の努力により栄えてきたわがまち播磨、このまちを平和でさらに生きがいのあるふるさとに育てるため、この憲章を定めます。

(昭和 57 年 3 月 27 日制定)

わたしたちは

1. 花と緑を育て、うるおいのあるまちをつくりま
1. たがいに尊敬しあい、ふれあいの輪を広げま
1. 働く喜びを味わい、明るい家庭をきずきま
1. スポーツに親しみ、健康なからだにきたえま
1. 学びを深め、豊かな文化を育てま

人権尊重「共に生きよう ふれあいのまち」宣言

ゆかしい歴史と恵まれた自然の中に生きる私たちは、心豊かに幸せな生活を送りたいと願っています。そのために、一人ひとりがお互いのいのちと人権を大切にし、共に学び、仲間としてふれあい、共感の輪を広げていきます。

ここに、わたしたちは人権尊重の原点に立ち、『共に生きようふれあいのまち』を宣言します。

みんなの暮らしにぬくもりがかよいあう明るいまちづくりをめざし、誇りをもって 21 世紀の扉をひらくよう努めます。

(平成元年 4 月 28 日宣言)

わたしたちは

1. 人権意識を高め、あらゆる差別をなくしま
1. 学習をすすめ、正しい生き方を身につけま
1. ふれあいを深め、あたたかい人間関係を築きま

2 播磨町生涯学習推進計画策定委員会設置要綱

令和2年1月28日
教育委員会要綱第1号

(設置)

第1条 生涯学習のための施策に関し、基本理念を定め、生涯学習のための施策を総合かつ計画的に推進するための基本計画を策定するため、播磨町生涯学習推進計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 播磨町生涯学習推進計画の策定に関すること。
- (2) その他関連する事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員10人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱し、又は任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 学校関係者
- (3) 社会体育関係団体代表者
- (4) 社会教育関係団体代表者
- (5) 社会福祉団体代表者
- (6) 障害者団体代表者
- (7) 自治会代表者
- (8) 高齢者団体代表者
- (9) 町職員
- (10) その他教育委員会が特に必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、第2条に規定する事務が終了するまでとする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会は委員長及び副委員長を置き、委員長は委員会の互選によって定め、副委員長は、委員長が指名する。

- 2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集し、委員長がその会議の議長となる。

- 2 委員長が必要と認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、教育委員会生涯学習グループにおいて処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関して必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、公布の日から施行する。

(この要綱の失効)

2 この要綱は、計画案の策定をもってその効力を失う。

(招集の特例)

3 この要綱の施行の日以降の最初に開かれる会議は、第6条第1項の規定にかかわらず、教育長が招集する。

3 播磨町生涯学習推進計画（第3次）策定委員会委員名簿

(敬省略)

氏名	所属
尼木 智美	NPO法人スポーツクラブ21はりま
猪 垣 敦	兵庫県立播磨南高等学校
江 草 誠	播磨町立播磨中学校
木 下 康雄	NPO法人まちづくりサポートはりま
小 西 茂行	播磨町シニアクラブ連合会
武 田 健二	教育委員会理事
西 野 英三郎	播磨町社会福祉協議会
政 本 和子	NPO法人文化・福祉・人権サポートアエソン
森 田 孝明	社会教育委員
山 本 一美	播磨町立図書館

事務局 教育委員会 生涯学習グループ

4 生涯学習についてのアンケート調査

■ 調査の概要

○ 調査の目的

生涯学習推進計画の策定の基礎資料として、調査を実施しました。

○ 調査対象

播磨町在住の20代から80代の方を無作為抽出

○ 調査期間

令和2年10月20日から令和2年11月9日

○ 調査方法

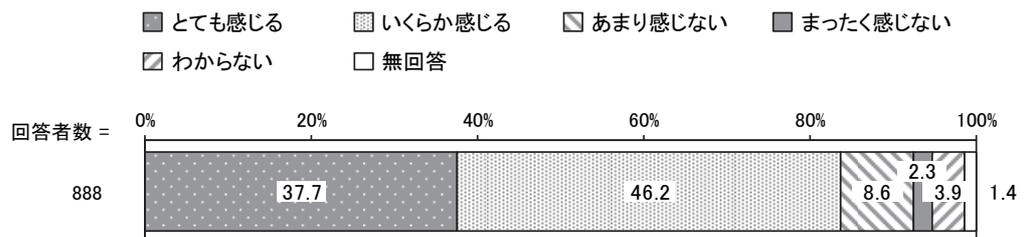
郵送による配布・回収

○ 回収状況

配布数	有効回答数	有効回答率
2,000 通	888 通	44.4%

① 播磨町に対する親しみや愛着（問8・単数回答）

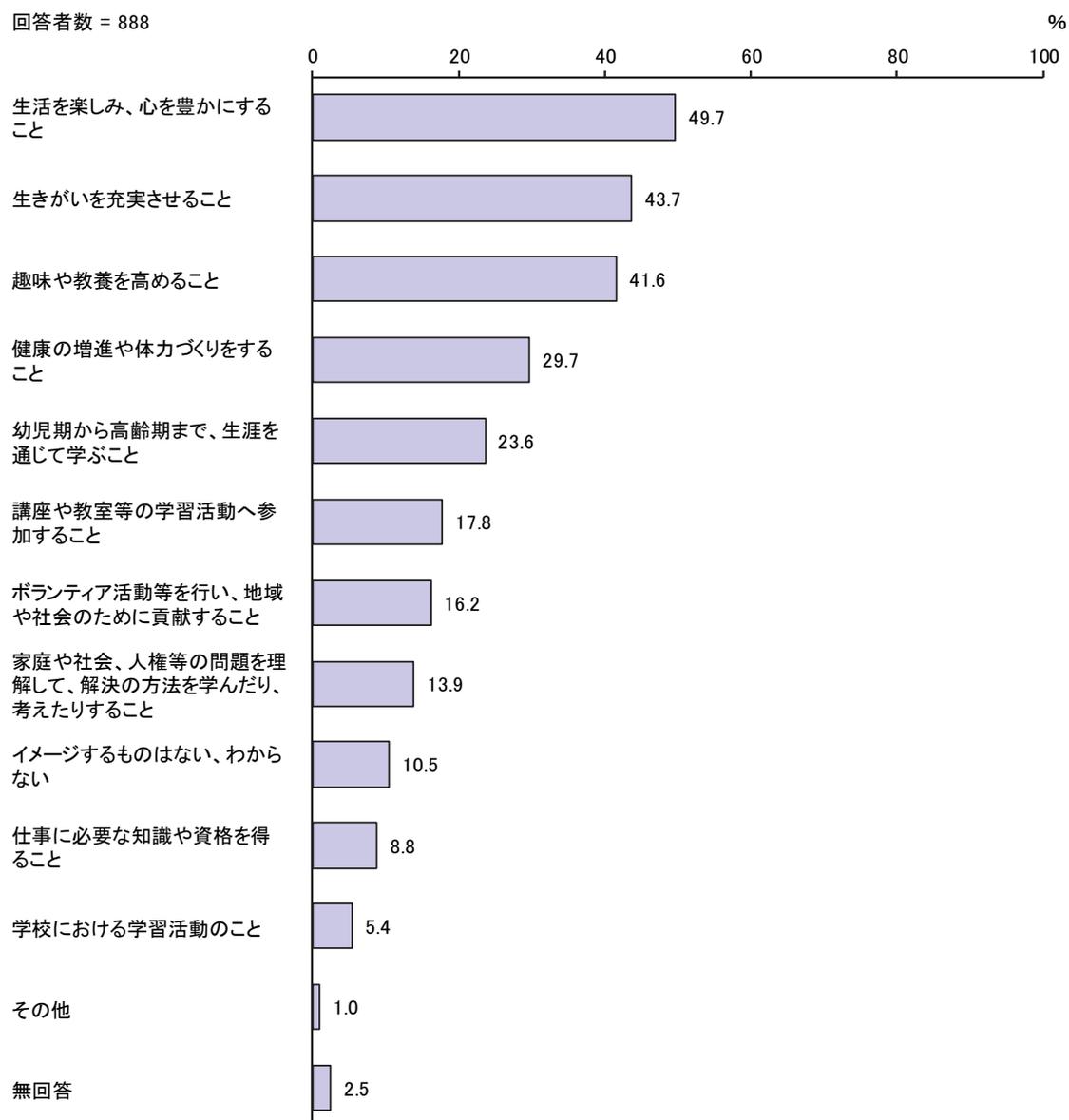
「いづらか感じる」の割合が46.2%と最も高く、次いで「とても感じる」の割合が37.7%となっています。



② 「生涯学習」のイメージ（問9・複数選択）

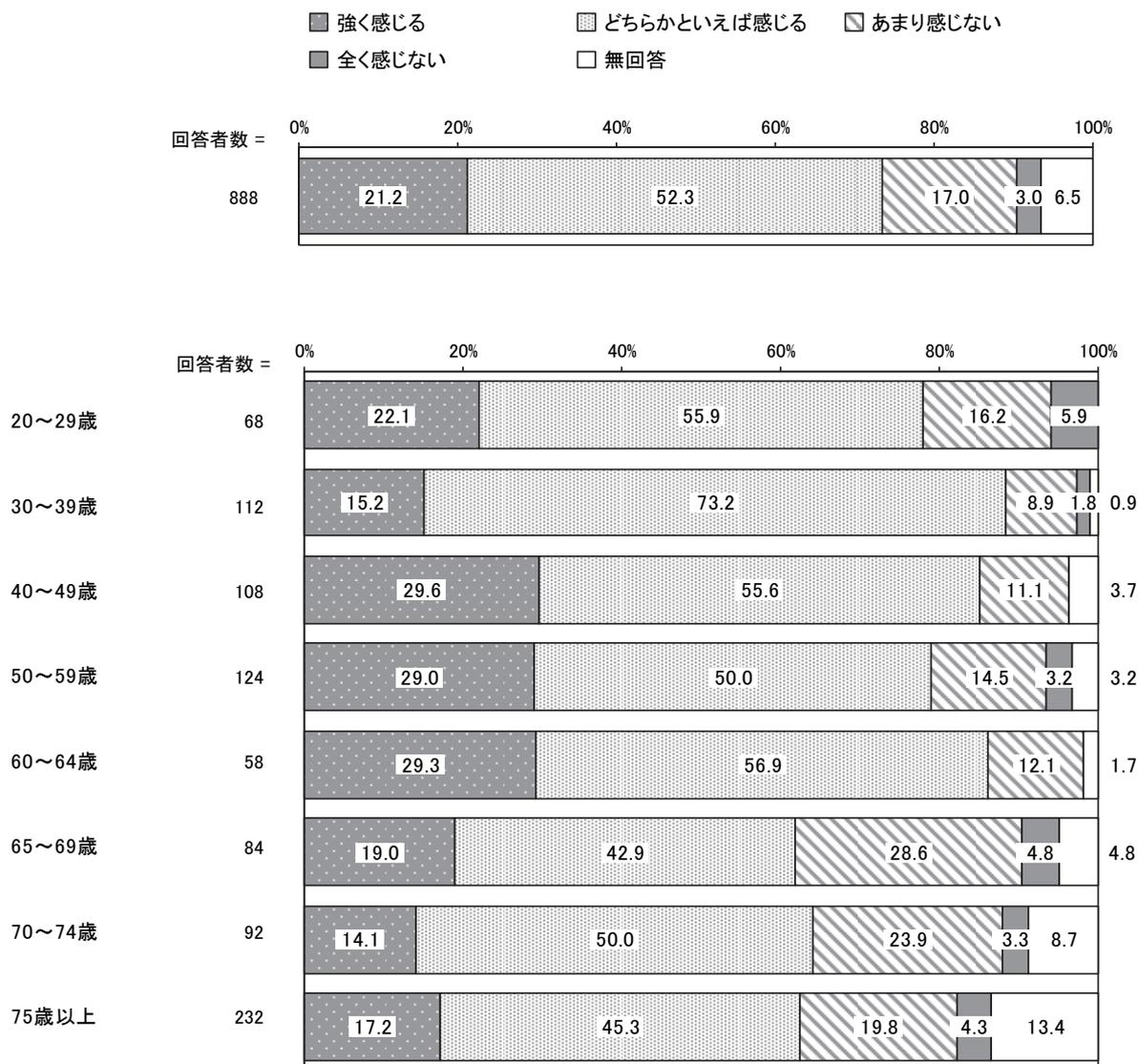
「生活を楽しみ、心を豊かにすること」の割合が49.7%と最も高く、次いで「生きがいを充実させること」の割合が43.7%、「趣味や教養を高めること」の割合が41.6%となっています。

回答者数 = 888



③ 「生涯学習」の必要性（問10・単数回答）

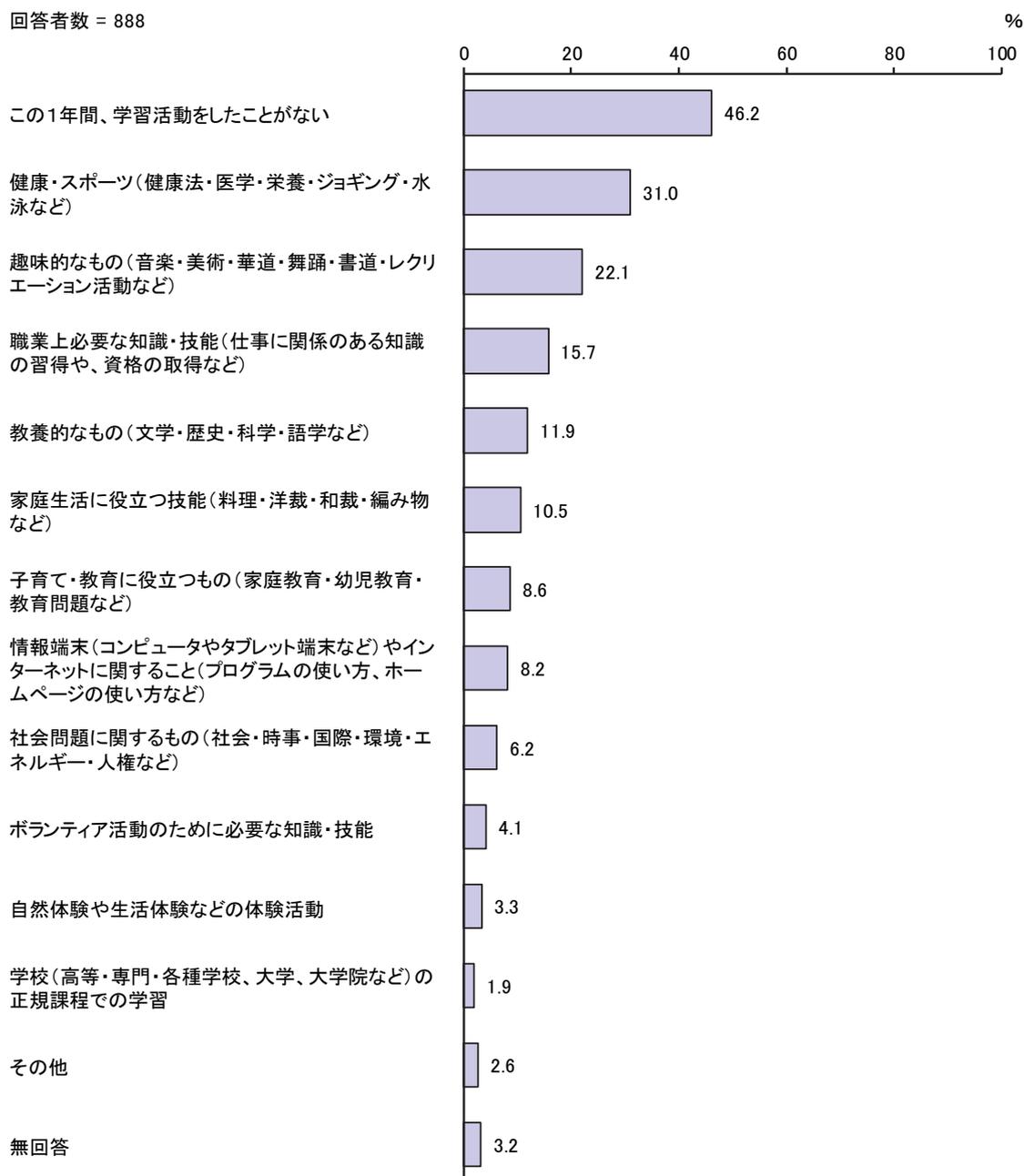
「どちらかといえば感じる」の割合が52.3%と最も高く、次いで「強く感じる」の割合が21.2%、「あまり感じない」の割合が17.0%となっています。年齢別でみると、40～64歳で「強く感じる」の割合が高くなっています。



④ 1年間の学習活動の内容（問11・複数選択）

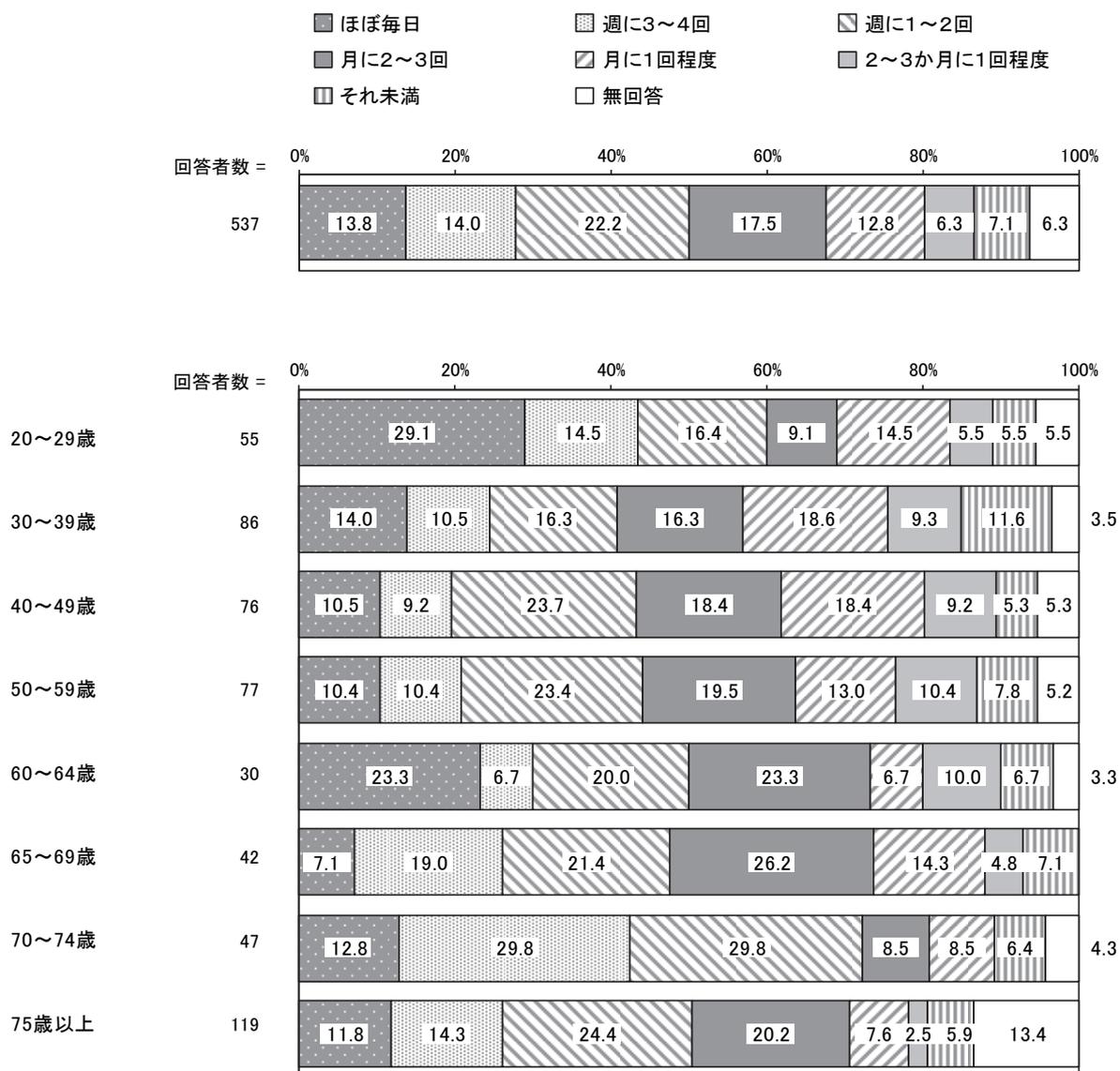
「この1年間、学習活動をしたことがない」の割合が46.2%と最も高く、次いで「健康・スポーツ（健康法・医学・栄養・ジョギング・水泳など）」の割合が31.0%、「趣味的なもの（音楽・美術・華道・舞踊・書道・レクリエーション活動など）」の割合が22.1%となっています。

回答者数 = 888



⑤ 学習活動の実施の頻度（問 11-1・単数回答）

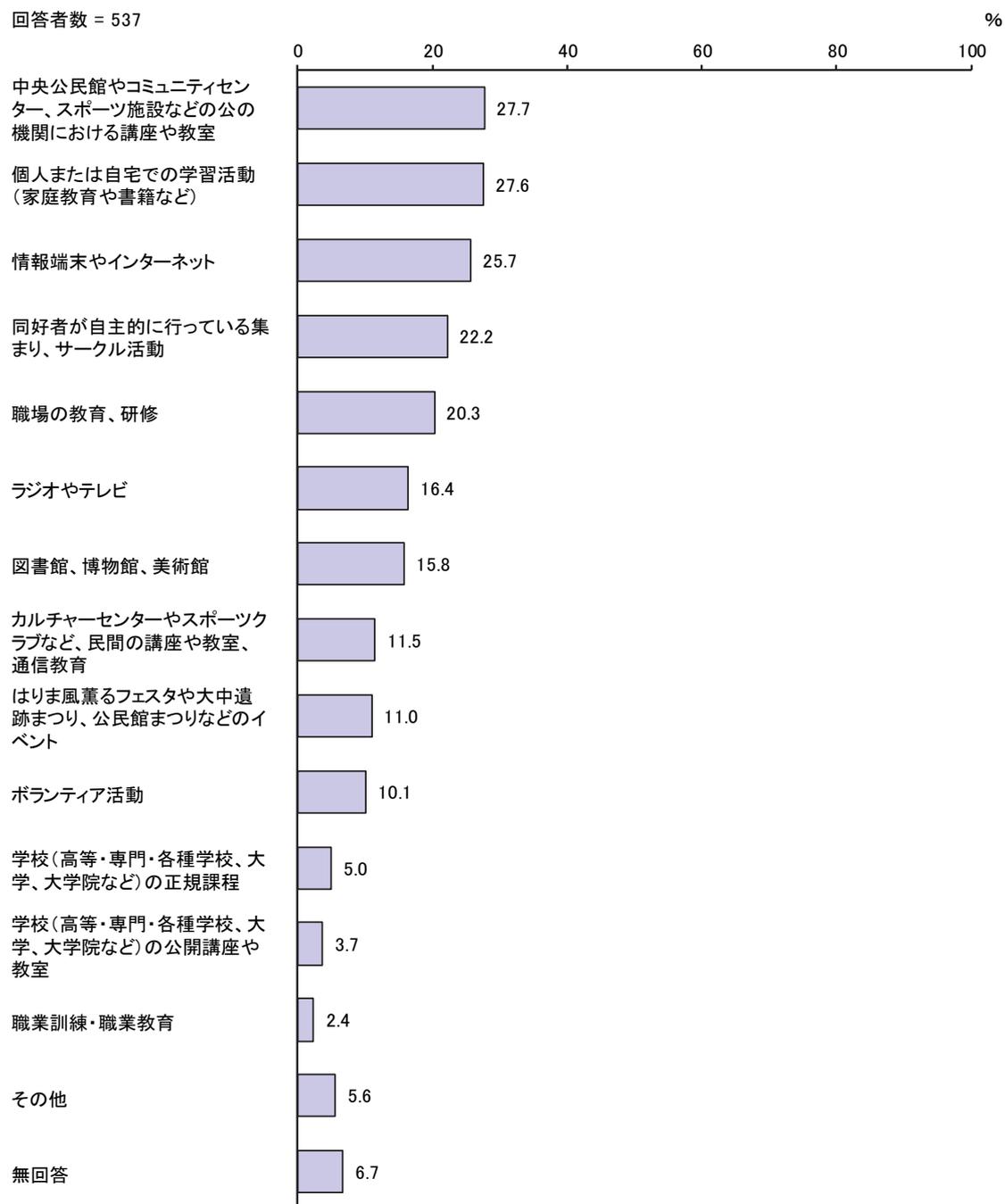
「週に1～2回」の割合が 22.2%と最も高く、次いで「月に2～3回」の割合が 17.5%、「週に3～4回」の割合が 14.0%となっています。年齢別でみると、70～74歳で「週に3～4回」「週に1～2回」の割合が高く、20～29歳で「ほぼ毎日」の割合が高くなっています。また、65～69歳で「月に2～3回」の割合が高くなっています。



⑥ 学習活動の場所や形態（問 11-2・複数選択）

「中央公民館やコミュニティセンター、スポーツ施設などの公の機関における講座や教室」の割合が27.7%と最も高く、次いで「個人または自宅での学習活動（家庭教育や書籍など）」の割合が27.6%、「情報端末やインターネット」の割合が25.7%となっています。

回答者数 = 537



年齢別でみると、75 歳以上で「同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動」の割合が高く、20～29 歳、40～49 歳で「個人または自宅での学習活動（家庭教育や書籍など）」の割合が高くなっています。

単位：%

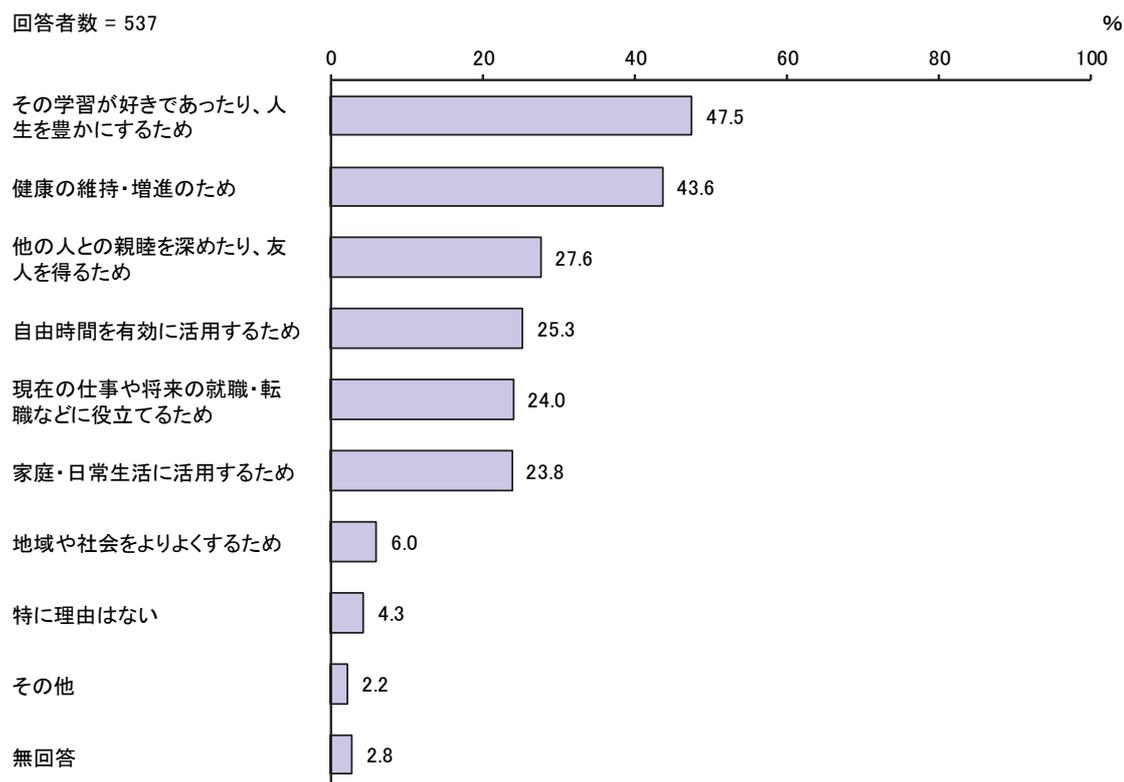
区分	有効回答数（件）	中央公民館やコミュニティセンター、スポーツ施設などの公の機関における講座や教室	はりま風薫るフェスタや大遺跡まつり、公民館まつりなどのイベント	カルチャーセンターやスポーツクラブなど、民間の講座や教室、通信教育	学校（高等・専門・各種学校、大学、大学院など）の公開講座や教室	学校（高等・専門・各種学校、大学、大学院など）の正規課程	職場の教育、研修	同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動
20～29 歳	55	10.9	5.5	7.3	12.7	21.8	34.5	9.1
30～39 歳	86	7.0	9.3	5.8	3.5	5.8	36.0	9.3
40～49 歳	76	26.3	9.2	14.5	2.6	6.6	34.2	17.1
50～59 歳	77	28.6	3.9	22.1	6.5	3.9	29.9	7.8
60～64 歳	30	33.3	13.3	26.7	—	—	16.7	23.3
65～69 歳	42	33.3	7.1	9.5	4.8	—	4.8	33.3
70～74 歳	47	40.4	10.6	6.4	—	2.1	4.3	25.5
75 歳以上	119	41.2	20.2	8.4	0.8	0.8	0.8	43.7

区分	図書館、博物館、美術館	ラジオやテレビ	情報端末やインターネット	個人または自宅での学習活動（家庭教育や書籍など）	ボランティア活動	職業訓練・職業教育	その他	無回答
20～29 歳	16.4	16.4	36.4	41.8	3.6	5.5	3.6	5.5
30～39 歳	19.8	4.7	38.4	34.9	2.3	4.7	8.1	7.0
40～49 歳	21.1	26.3	34.2	40.8	9.2	3.9	—	6.6
50～59 歳	13.0	15.6	35.1	32.5	9.1	2.6	5.2	3.9
60～64 歳	16.7	26.7	30.0	26.7	13.3	3.3	—	3.3
65～69 歳	21.4	23.8	14.3	14.3	14.3	—	2.4	9.5
70～74 歳	10.6	12.8	12.8	25.5	12.8	—	12.8	6.4
75 歳以上	10.1	15.1	8.4	9.2	15.1	—	8.4	9.2

⑦ 学習活動の理由（問 11-3・複数選択）

「その学習が好きであったり、人生を豊かにするため」の割合が 47.5%と最も高く、次いで「健康の維持・増進のため」の割合が 43.6%、「他の人との親睦を深めたり、友人を得るため」の割合が 27.6%となっています。年齢別で見ると、20～64 歳で「その学習が好きであったり、人生を豊かにするため」の割合が高く、65 歳以上で「健康の維持・増進のため」の割合が高くなっています。

回答者数 = 537

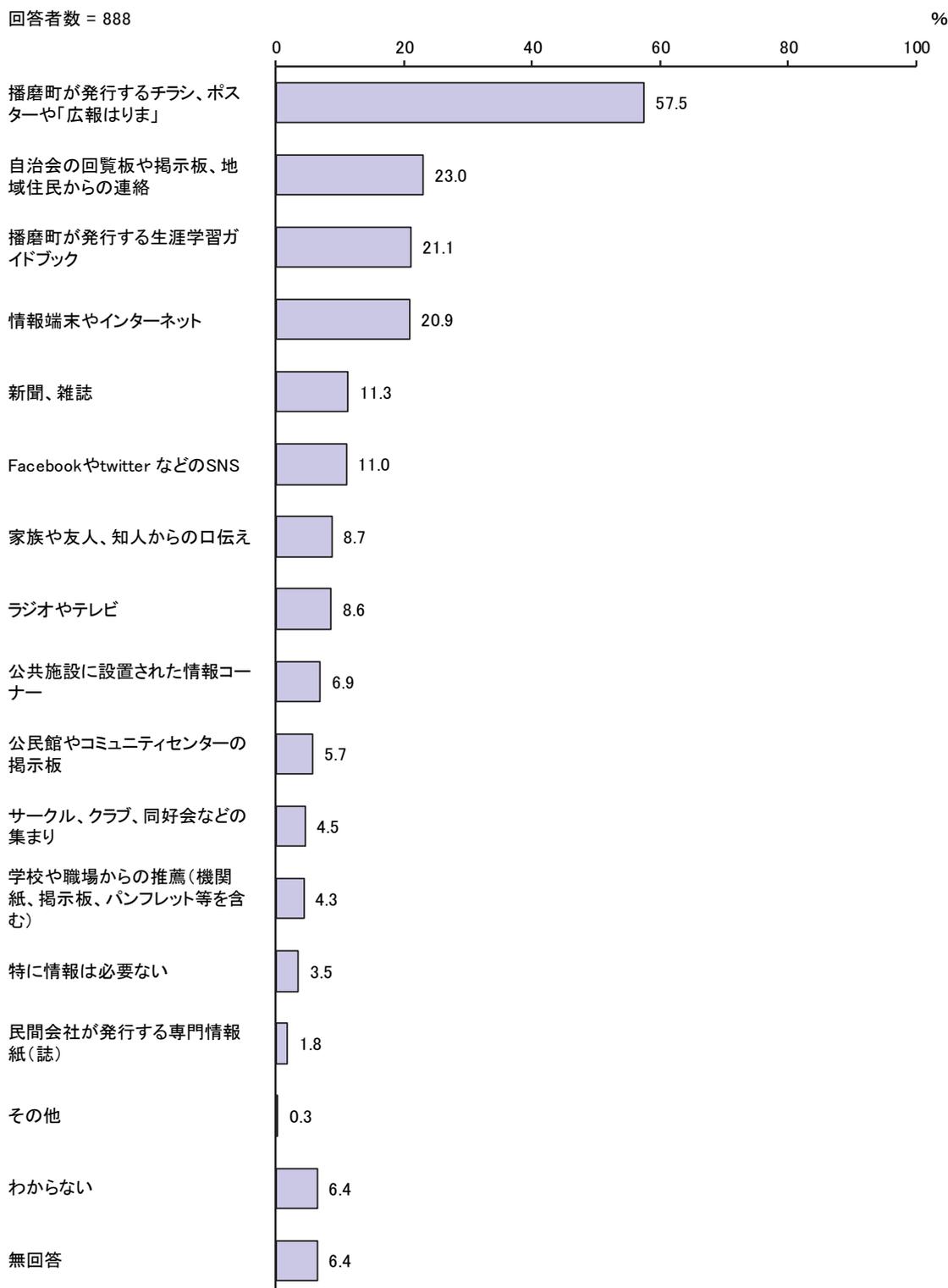


単位：%

区分	有効回答数 (件)	その学習が好きであったり、人生を豊かにするため	家庭・日常生活に活用するため	自由時間を有効に活用するため	健康の維持・増進のため	他の人との親睦を深めたり、友人を得るため	現在の仕事や将来の就職・転職などに役立てるため	地域や社会をよりよくするため	その他	特に理由はない	無回答
20～29 歳	55	52.7	27.3	20.0	18.2	10.9	49.1	1.8	3.6	3.6	3.6
30～39 歳	86	51.2	41.9	20.9	17.4	14.0	44.2	1.2	1.2	—	2.3
40～49 歳	76	55.3	31.6	23.7	35.5	21.1	38.2	3.9	2.6	2.6	3.9
50～59 歳	77	46.8	18.2	19.5	33.8	15.6	36.4	7.8	3.9	5.2	2.6
60～64 歳	30	66.7	20.0	26.7	63.3	33.3	13.3	6.7	—	—	—
65～69 歳	42	42.9	21.4	28.6	52.4	31.0	—	9.5	—	4.8	—
70～74 歳	47	48.9	6.4	25.5	61.7	36.2	2.1	4.3	4.3	6.4	6.4
75 歳以上	119	35.3	16.0	33.6	68.1	49.6	0.8	9.2	1.7	8.4	2.5

⑧ 生涯学習に関する情報入手方法の希望（問 13・複数選択）

「播磨町が発行するチラシ、ポスターや「広報はりま」」の割合が57.5%と最も高く、次いで「自治会の回覧板や掲示板、地域住民からの連絡」の割合が23.0%、「播磨町が発行する生涯学習ガイドブック」の割合が21.1%となっています。年齢別で見ると、30歳以上で「播磨町が発行するチラシ、ポスターや「広報はりま」」の割合が高く、20～29歳で「情報端末やインターネット」の割合が高くなっています。



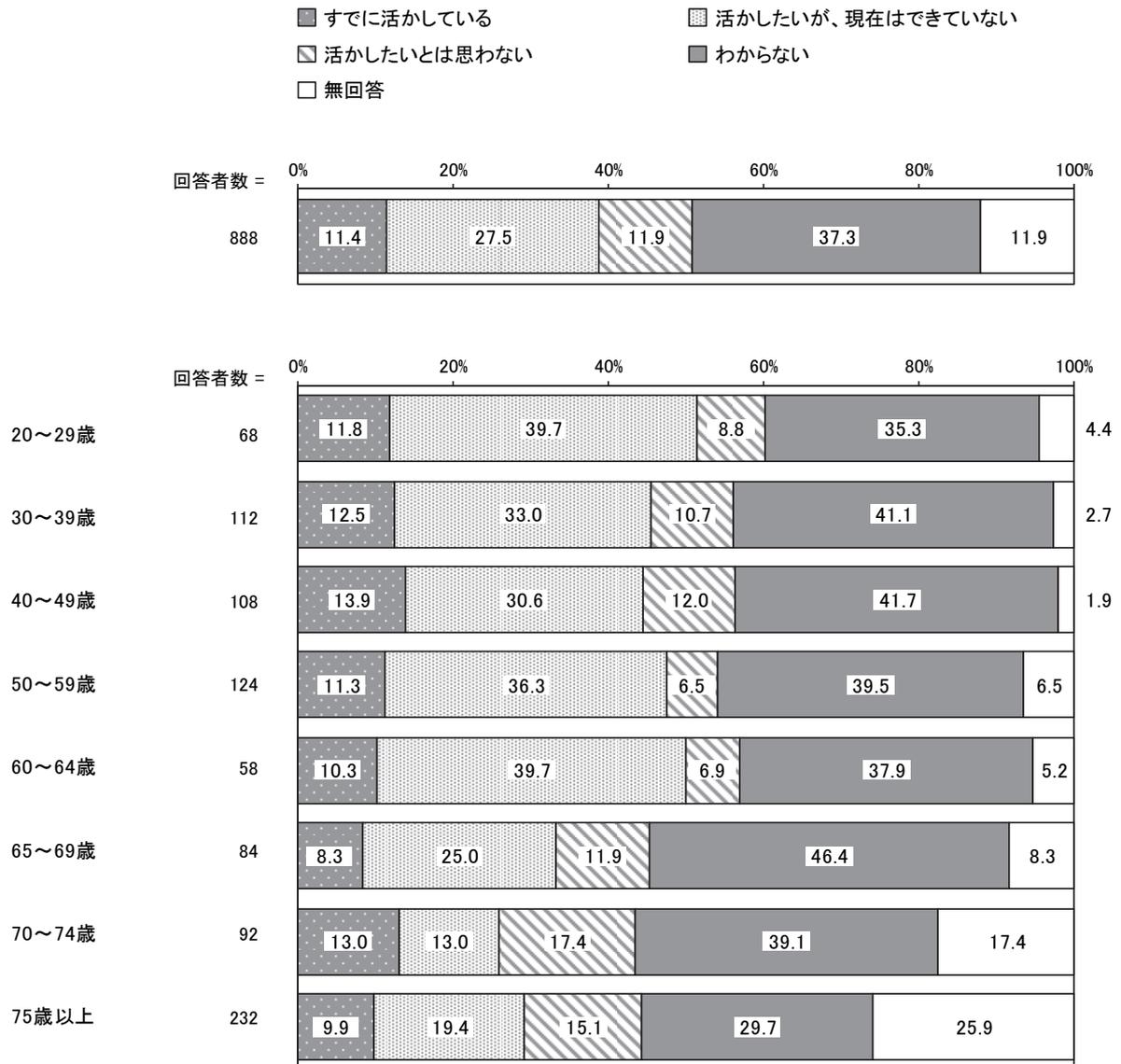
単位：％

区分	有効回答数（件）	播磨町が発行する生涯学習ガイドブック	播磨町が発行するチラシ、ポスターや「広報はりま」	公共施設に設置された情報コーナー	公民館やコミュニティセンターの掲示板	自治会の回覧板や掲示板、地域住民からの連絡	新聞、雑誌	ラジオやテレビ	家族や友人、知人からの口伝え
20～29 歳	68	5.9	38.2	11.8	5.9	13.2	13.2	11.8	17.6
30～39 歳	112	21.4	60.7	11.6	6.3	21.4	7.1	8.0	12.5
40～49 歳	108	21.3	66.7	9.3	8.3	17.6	13.0	7.4	9.3
50～59 歳	124	19.4	58.9	4.8	2.4	17.7	14.5	10.5	8.1
60～64 歳	58	32.8	63.8	10.3	6.9	25.9	15.5	5.2	6.9
65～69 歳	84	31.0	64.3	4.8	6.0	26.2	6.0	8.3	4.8
70～74 歳	92	27.2	58.7	3.3	4.3	25.0	7.6	6.5	7.6
75 歳以上	232	15.9	52.2	3.9	5.6	29.3	12.1	9.1	6.0

区分	サークル、クラブ、同好会などの集まり	学校や職場からの推薦（機関紙、掲示板、パンフレット等を含む）	民間会社が発行する専門情報紙（誌）	情報端末やインターネット	Facebook や Twitter などの SNS	その他	特に情報は必要ない	わからない	無回答
20～29 歳	7.4	8.8	5.9	42.6	41.2	—	1.5	10.3	—
30～39 歳	2.7	10.7	2.7	42.0	26.8	—	3.6	5.4	1.8
40～49 歳	1.9	11.1	2.8	36.1	13.9	—	—	5.6	1.9
50～59 歳	1.6	0.8	1.6	35.5	15.3	0.8	0.8	4.8	4.8
60～64 歳	8.6	3.4	—	19.0	5.2	1.7	5.2	1.7	—
65～69 歳	3.6	1.2	2.4	9.5	1.2	—	4.8	7.1	3.6
70～74 歳	5.4	1.1	—	4.3	1.1	—	4.3	7.6	8.7
75 歳以上	6.0	1.3	0.4	1.7	0.4	0.4	6.0	7.8	14.2

⑨ 生涯学習成果を地域や社会での活かすことへの希望（問 15・単数回答）

「わからない」の割合が37.3%と最も高く、次いで「活かしたいが、現在はできていない」の割合が27.5%、「活かしたいとは思わない」の割合が11.9%となっています。年齢別でみると、20～29歳、50～59歳、60～64歳で「活かしたいが、現在はできていない」の割合が高くなっています。



⑩ 学習活動をより盛んにしていくために、播磨町で力を入れるべきこと
 (問 17・複数選択)

「播磨町のホームページで生涯学習情報を充実させる」の割合が 25.0%と最も高く、次いで「講座をインターネットで予約できるようにする」の割合が 18.6%、「町内の施設が連携して、子どもの学校外での体験学習の機会を増やす」の割合が 16.7%となっています。

回答者数 = 888



年齢別でみると、40～69歳で「播磨町のホームページで生涯学習情報を充実させる」の割合が高く、30～39歳で「講座をインターネットで予約できるようにする」の割合が高くなっています。また、20～29歳で「FacebookやtwitterなどのSNSで情報を発信する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	大学や研究機関との連携によって、高度な内容の講座を提供する	生涯学習に関する専門職員(社会教育主事、司書、学芸員、体育指導者など)を育成する	生涯学習を支援する地域の人材(コーディネーター、リーダーなど)を把握する	講座参加者が交流したり、講座終了後も継続的な学習ができるよう、職員がサポートする	講座参加者が交流したり、講座終了後も継続的な学習ができるよう、職員がサポートする	社会教育関係団体、青少年団体などのボランティア活動を支援する	播磨町のホームページで生涯学習情報を充実させる	講座をインターネットで予約できるようにする
20～29歳	68	10.3	11.8	14.7	13.2	8.8	25.0	33.8	
30～39歳	112	12.5	14.3	12.5	8.9	8.9	31.3	40.2	
40～49歳	108	13.9	16.7	16.7	13.0	8.3	41.7	40.7	
50～59歳	124	8.1	12.9	24.2	13.7	8.1	31.5	25.0	
60～64歳	58	6.9	10.3	22.4	22.4	6.9	34.5	13.8	
65～69歳	84	6.0	14.3	16.7	9.5	7.1	28.6	7.1	
70～74歳	92	3.3	13.0	16.3	5.4	5.4	14.1	4.3	
75歳以上	232	4.3	9.1	11.6	8.6	5.2	12.5	1.7	

区分	町内の施設が連携して、子どもや学校外での体験学習の機会を増やす	学校図書室やグラウンドなど、学校をもっと地域に開放する	学校での正規課程での学習において、地域や社会を支援する活動を取り入れる	町内で活動する団体同士が知り合う場の提供、仕組みづくりを行う	FacebookやTwitterなどのSNSで情報を発信する	特になし	わからない	無回答
20～29歳	30.9	19.1	19.1	14.7	38.2	1.5	11.8	2.9
30～39歳	35.7	13.4	10.7	8.0	25.0	4.5	12.5	1.8
40～49歳	32.4	12.0	13.0	9.3	14.8	0.9	11.1	1.9
50～59歳	11.3	13.7	5.6	10.5	10.5	6.5	10.5	4.8
60～64歳	13.8	10.3	3.4	13.8	5.2	6.9	10.3	3.4
65～69歳	9.5	9.5	8.3	10.7	2.4	9.5	19.0	8.3
70～74歳	6.5	4.3	—	13.0	—	19.6	19.6	17.4
75歳以上	6.0	6.9	6.0	11.2	1.3	14.7	21.6	22.8

■ 調査の概要

○ 調査の目的

生涯学習推進計画を新たに策定するにあたり、アンケート調査の結果を補完するため、播磨町における教育の現状と課題を把握するために、町内の生涯学習関連団体に対してヒアリング調査を実施しました。

○ 調査対象

本調査では、アンケートでは聞き取ることができない播磨町の生涯学習を取り巻く現状を把握するため、以下の教育関連施設・団体を対象にヒアリング調査を実施しました。

- ① 青年層の生涯学習に関する団体（播磨ゆめづくり塾「マチで暮らそう。はりま
で育ち塾」）
- ② 子どもの生涯学習に関する団体（放課後子ども教室「みんなでアソビバ」）
- ③ 高齢者の生涯学習に関する団体（播磨町シニアクラブ連合会）
- ④ 特別な支援を必要とする子どもたちの生涯学習に関する団体（播磨町手をつな
ぐ育成会）

○ 調査方法

- ① 依頼文・シート作成
- ② ヒアリング対象先へシート記入依頼
- ③ ヒアリング対象先に WEB ID 送信もしくは WEB 機材送付
- ④ 指定日に WEB 会議実施

○ 調査実施時期

令和3年2月

主な意見

区分	対象者	主な内容
(1) 青年層の生涯学習に関する団体	播磨ゆめづくり塾「マチで暮らそう。はりまで育ち塾」	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動をする上でのモチベーション <ul style="list-style-type: none"> ・活動したいという思いを持っていても行う機会やきっかけがない人たちは、何かしたいという気持ちがモチベーションとなっている。 ・主催者として自分たちの活動に賛同して協力してくれる人がいること。 ○ 主な活動内容について <ul style="list-style-type: none"> ・若い人たちを中心に夢づくり塾などまちづくり活動を、播磨町の事業の一環としてみんなで考えながら行っている。(若い人たちにとってのサードプレイスづくり。) ・ボードゲーム、オンライン上での写真展など ○ 活動を通じて抱えている課題について <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で参加人数の制限などがあり、人を集めてのイベントを開催できない状態。 ・SNSでの広報活動も行っているが、播磨町で検索する人が少なく、効果が少ない。情報を「つなげる」・「届ける」ことの難しさ。 ・オンラインを活用することと活動の趣旨をすり合わせるのが難しい。 (オンラインで代用できるものばかりでない。) ○ 播磨町に期待すること、特に重点を置いてほしいこと <ul style="list-style-type: none"> ・播磨町は高齢者や子育てについては支援が充実していると感じているが、若い人たちに対して何を求めているかがわかりにくい。 ・若年層世代(特に10～20代)が町内で楽しめる環境があれば良いと思う。

区分	対象者	主な内容
(2) 子どもの生涯学習に関する団体	放課後子ども教室「みんなでアソビバ」	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動を行う上でのモチベーション <ul style="list-style-type: none"> ・新しい出会いがあること。人と人とが笑顔で集まってくることが一番の原動力になっている。 ○ 主な活動内容について <ul style="list-style-type: none"> ・週1回各小学校区にて、自由に過ごす居場所づくりを目的に放課後子ども教室を運営している。 ・場所は本来であれば学校の空き教室を使用するが、播磨町内の学校は空き教室が少ないため、コミュニティセンターや福祉会館、公民館などできるだけ学校に近いところを使用している。 ○ 活動を通じて抱えている課題について <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの集まりが少ない。特に立ち上げに携わっていく人が少ない。 ・地域の方とのつながりづくりが難しい。 ○ 播磨町の子どもたちについて感じる事 <ul style="list-style-type: none"> ・のんびりした子どもが多い。 ・播磨町は子どもが育つ環境としてはよいところ。 ○ 播磨町の子どもたちを取り巻く教育環境について感じる事 <ul style="list-style-type: none"> ・播磨町は子育てサービスは非常に充実していると感じている。それにより親が自分たちで子どもを育てていくという意識が薄れてしまっていると感じる。 ○ 播磨町に期待すること、特に重点を置いてほしいこと <ul style="list-style-type: none"> ・全ての子どもたちが年齢を問わずに、いつでも来ることができる場所として、その機能を有する施設をつくっていただきたい。
(3) 高齢者の生涯学習に関する団体	播磨町シニアクラブ連合会	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動を通じて抱えている課題について <ul style="list-style-type: none"> ・何と言っても高齢化が進んでいること。 ・最近の高齢者は時間等に余裕があり、個人個人で気の合う仲間との交流に軸足を置いているため、団体の役員などはやりたがらない。 ○ 今後の展望について <ul style="list-style-type: none"> ・全国的に老人クラブの構成人数は減少の一途をたどっている。様々なテコ入れ策を講じてはいるが減少傾向に歯止めはかかってはいない。 ○ 播磨町に期待すること、特に重点を置いてほしいこと <ul style="list-style-type: none"> ・経験豊富な人生を何かの役に立てたいという人材が多数存在している。その存在を播磨町の役に立てていく手法を考えるべきと思う。 ・元気な高齢者に介護予防・認知症予防の担い手になってもらうという事業などを立ち上げれば、自身の介護・認知予防にも直結する。事業として成り立てば、生きがいともなり得ると思う。

区分	対象者	主な内容
(4) 特別な支援を必要とする子どもたちの生涯学習に関する団体	播磨町手をつなぐ育成会	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動を行う上での思いやモチベーション <ul style="list-style-type: none"> ・親の悩みを抽出して共有することで、子どもたちが困らないようにしていくことが大事だと考えている。 ○ 学校教育における現状と課題について <ul style="list-style-type: none"> ・障がい児の増加に伴い地域の小学校の特別支援学級が増えていて、先生が対応しきれなくなっている。 ○ 学校卒業後の学びにおける現状と課題について <ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の進路の提案がほとんど就労場所に関することである。 ・学びの環境がほとんどない。あったとしても都市部にしかなく、地域差があるため通えない人がいる。 ・サークルを主催しているが、維持していくのが難しい。 ・保護者としては、育てていくことで精いっぱい情報までたどり着かない。 ○ 今後の展望について <ul style="list-style-type: none"> ・播磨町での生涯学習の拠点を作ってほしい。そこが中心となって既存の施設を巻き込みながら学習機会をつくっていく。 ○ 播磨町に期待すること、特に重点を置いてほしいこと <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者の目線に立った施策をしてほしい。 ・町発信でオンラインを活用することによって、障がい者の学べる環境づくりができると思う。

6 計画の歩み

年 度	内 容
平成15年度	生涯学習推進計画（前期）策定（平成15年度から平成18年度）
平成18年度	生涯学習推進計画（後期）策定（平成19年度から平成22年度）
平成22年度	生涯学習推進計画（前期）策定（平成23年度から平成27年度）
平成27年度	生涯学習推進計画（後期）策定（平成28年度から平成32年度）
令和3年度	生涯学習推進計画（前期）策定（令和3年度から令和7年度）

7 用語解説

【あ行】

生きる力

予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力のこと。

インクルーシブ教育

多様なニーズに対応できるように障がいのある子どもを含むすべての子どもを包含する教育のこと。

【か行】

外国人英語指導助手（ALT）

小中学校、高等学校などの英語の授業で日本人教師を補助する役割を担う。

学習指導要領

全国のどの地域で教育を受けても、一定の水準の教育を受けられるようにするため、文部科学省において、学校教育法などにに基づき、各学校で教育課程（カリキュラム）を編成する際の基準を定めたもの。

環境教育

人間と地球環境との関わりについて理解を深め、環境の回復、創造に向けた知識や関心を高める教育のこと。

共生社会

誰もが相互に人格と個性を尊重し支えあい、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会のこと。

【さ行】

持続可能な社会

将来の世代が必要とするものを損なうことなく、現在の世代の要求を満たすような開発が行われている社会のこと。

主体的・対話的で深い学び

各教科などの特質に応じた物事を捉える視点や考え方を育むことに留意し、子どもが各教科などの特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えをもとに創造したりすることに向かう過程を重視した学習のこと。

生涯学習社会

「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会」（教育基本法第3条・生涯学習の理念より）のこと。

人生100年時代

健康寿命が高齢化し、個人が平均的に100歳前後まで生存することが可能になった時代のこと。

成人教育

広義には、一般成人を対象とし、学校教育で習得した知識、技能の基盤のうえに、社会生活に必要な各種の学習の機会を提供する教育のこと。

【た行】

点検・評価

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等のことで、地方教育行政の組織及び運営に関する法律において、教育委員会は、教育行政事務の管理執行状況について、自己点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表しなければならないと定められている。

【は行】

ビッグデータ

数百テラ（1兆）バイトからペタ（1,000兆）バイト級の膨大なデジタルデータの集積のこと。ビッグデータには文字、数字、図表、画像、音声、動画など、さまざまなタイプのデータが含まれる。ビッグデータの解析から得た知見を、マーケティングなど企業経営や新しいビジネスの創造に活かそうという動きが活発化している。

ファミリー・サポート・センター

会員同士がお互いに助けあう子育ての相互援助の会のこと。会員は依頼会員（子育ての手助けをしてほしい方）、協力会員（子育ての応援をしたい方）、両方会員（依頼と協力の両方を行いたい方）で構成されている。

ホームページ

公式サイトのこと。
公式サイトとは、官公庁等の当事者が、その組織紹介などのために開設した、インターネット上のサイトのこと。

【ら行】

リカレント教育

生涯を通じて、職業能力の向上や新しい知識や技術の習得、専門的な知識や知見を仕事に活かすための社会人の学び直しのこと。

【アルファベット】

ICT (Information and Communication Technology)

情報通信技術の略。学校においてパソコンやデジタルテレビを導入し、授業での子どもたちの情報活用能力の育成を図る。教師による学習指導の準備と評価のための活用や授業での活用も行われている。

IoT (Internet of Things)

「モノのインターネット」といわれ、情報伝達機能をモノに組み込み、インターネットでつなぐことで、モノからデータ取得したりモノそのものを遠隔操作する仕組みのこと。

PDCA

マネジメント手法の一種で、「計画」(Plan)、「実施」(Do)、「評価」(Check)、「改善」(Action)の頭文字をとったもの。

SNS

インターネットを介して人間関係を構築できるスマートフォン・パソコン用のWebサービスの総称。

SWOT分析

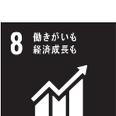
おかれている現状を分析し、方向性や改善点を見つけ出すフレームワークのこと。本町の生涯学習を取り巻く現状を“強み (strength)”と“弱み (weakness)”、“機会 (opportunity)”と“脅威 (threat)”を整理するもの。

Society 5.0

サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)。

8 本計画と「持続可能な開発目標（SDGs）」との関係

平成27年9月に国連サミットで持続可能な開発目標（SDGs）が採択されました。SDGsは17の目標（ゴール）と169のターゲットからなる行動指針で、誰一人取り残されない社会の実現に向けた取り組みを推進します。本町の生涯学習計画においては、17の目標のうち特に3、4、11、17の4つが大きく関わっています。

SDGsの目標			
	目標1 あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる		目標10 各国内及び各国間の不平等を是正する
	目標2 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する		目標11 包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する
	目標3 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する		目標12 持続可能な生産消費形態を確保する
	目標4 すべての人々への、包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する		目標13 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
	目標5 ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う		目標14 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
	目標6 すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する		目標15 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
	目標7 すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する		目標16 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
	目標8 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する		目標17 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する
	目標9 強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る		

播磨町生涯学習推進計画
(第3次)

令和3年9月

播磨町教育委員会 生涯学習グループ

住 所 : 〒675-0182

兵庫県加古郡播磨町東本荘1丁目5番30号

T E L : 079-435-0565 F A X : 079-437-4193